

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	カッポウホクワン ナシヨウガクエン 学校法人 浪商学園								
フリガナ大学の名称	オサカタイイカクダク 大阪体育大学（Osaka University of Health and Sport Sciences）								
大学本部の位置	大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1								
大学の目的	大阪体育大学は、教育基本法に基づき、学校教育法の定めにより、体育・スポーツ及び学校教育に関する科学の理論と技術を教授研究し、豊かな教養と広い識見を備える実践的、創造的な人材を育成し、国民の健康とスポーツ文化及び学校教育の向上に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>本学は、「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神を実現するため、また「人類の平和と幸福のため修学修身知識と体力の開発に精進努力する」の学是に基づき、以下のように教育目標を定めている。</p> <p>(1) 豊かな教養を修める。 (2) 専門的な知識・技能を修得する。 (3) 調和のとれた人格を形成する。 (4) 社会に貢献できる力を身につける。 (5) 能動的・自立的行動力を身につける。</p> <p>スポーツ科学部においては、以上の様な力を有する人材を育成することを目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	スポーツ科学部 [School of Sport Sciences]	年	人	年次人	人		年月 第年次	大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1	
	スポーツ科学科 [Department of Sport Sciences]	4	520	-	2080	学士（スポーツ科学） 【Bachelor of Sport Sciences】	令和6年4月 第1年次		
	計		520	-	2080				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		<p>体育学部 スポーツ教育学科（廃止） (△320) (令和6年4月学生募集停止) 健康・スポーツマネジメント学科（廃止） (△200) (令和6年4月学生募集停止)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
		168 科目	33 科目	125 科目	326 科目	124 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	スポーツ科学部 スポーツ科学科	31 (31)	15 (15)	14 (14)	2 (2)	62 (62)	0 (0)	78 (78)
		計	31 (31)	15 (15)	14 (14)	2 (2)	62 (62)	0 (0)	78 (78)
	既設分	教育学部 教育学科	14 (14)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	47 (47)
計		14 (14)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	47 (47)	
合計		45 (45)	21 (21)	17 (17)	2 (2)	85 (85)	0 (0)	125 (125)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		47 (47)	54 (54)	101 (101)	人			
	技 術 職 員		2 (2)	1 (1)	3 (3)				
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計		50 (50)	55 (55)	105 (105)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	32,359 m ²	0 m ²	0 m ²	32,359 m ²				
	運 動 場 用 地	96,007 m ²	0 m ²	0 m ²	96,007 m ²				
	小 計	128,366 m ²	0 m ²	0 m ²	128,366 m ²				
	そ の 他	51,078 m ²	0 m ²	0 m ²	51,078 m ²				
合 計		179,444 m ²	0 m ²	0 m ²	179,444 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		25,453.46 m ² (25,453.46 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	25,453.46 m ² (25,453.46 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	38 室	37 室	28 室	0 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		スポーツ科学部		65 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
		204,388 [51,143] (199,092 [49,555])	3,246 [518] (3,246 [518])	50 [50] (38 [38])	5,969 (5,879)	9,077 (9,077)	0 (0)		
	計	204,388 [51,143] (199,092 [49,555])	3,246 [518] (3,246 [518])	50 [50] (38 [38])	5,969 (5,879)	9,077 (9,077)	0 (0)		
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		1,989 m ²		286		210,000			
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
		14,798.62 m ²		陸上競技場1面、サッカー場1面、ラグビー場1面、テニスコート8面、ハンドボールコート1面、プール1面					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	経費の見積り	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		800千円	800千円	800千円	800千円	-	-
		共同研究費等		0	0	0	0	-	-
		図書購入費	26,520千円	26,520千円	26,520千円	26,520千円	26,520千円	-	-
	設備購入費	20,000千円	0	0	0	0	-	-	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,462千円	1,212千円	1,212千円	1,212千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、寄付金（特別寄付金）、手数料（入学検定料）等						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		大阪体育大学						
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	体育学部	年	人	年次人	人		倍		
	スポーツ教育学科	4	320	—	1280	学士（体育学）	1.04	平成18年度	大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
	健康・スポーツマネジメント学科	4	200	—	800	学士（体育学）	1.11	平成18年度	
教育学部 教育学科	4	125	—	500	学士（教育学）	1.11	平成27年度		
		令和6年度より学生募集停止 令和6年度より学生募集停止							

附属施設の概要	<p>名称：大阪体育大学情報処理センター 目的：教育・研究に関する成果及び資料の蓄積・提供と、学習に資することを目的とする。 所在地：大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 設置年月：平成11年4月</p>
	<p>名称：大阪体育大学スポーツ科学センター 目的：本学学生のスポーツ科学サポートを推進することを目的とする。 所在地：大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 設置年月：平成28年4月 規模等：1286.06 m²</p>
	<p>名称：大阪体育大学社会貢献センター 目的：本学学生に実践的な学びの場を提供するとともに、本学が有するスポーツ、福祉及び教育に関する知的・人的資源を活用して青少年の健全育成や心身の健康の保持推進、地域コミュニティの促進に資する事業並びに研究活動を実施することによって社会貢献に寄与することを目的とする。 所在地：大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 設置年月：平成29年4月1日</p>
	<p>名称：大阪体育大学国際交流センター 目的：海外の大学・教育研究機関との学術・文化の交流促進、本学の教育・研究活動の向上と発展に資することを目的とする。 所在地：大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 設置年月：令和3年4月1日</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校¹の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎 教育科目	必修	日本語技法 情報処理実習Ⅰ	1前 1後	2 1			○		○	1 1	3	1			兼7 兼3	
	必修 選択	統計 統計基礎	1後 1後		2 2		○ ○			1		1 1			兼1	
	選択	日本語技法基礎 日本語技法応用 情報処理実習Ⅱ	1前 1後 1前		2 2 1		○ ○		○	1 1 1	1 2	1			兼7 兼3	
	必修	総合英語A 総合英語B 実践英語	1前 1後 1後	1 1 1			○ ○		○	1 1 1	2 2				兼5 兼5 兼3	
	選択	応用英語	2前		1		○			1	1					
		英会話Ⅰ	2前		1		○								兼1	
		英会話Ⅱ	2後		1		○								兼1	
		海外語学研修	2前		1		○			1						
		ドイツ語 中国語	2前 2前		1 1		○ ○								兼2 兼1	
	一般 教育科目	選択 必修	文学	1前		2		○				1	1			
			宗教学	1前		2		○					1			
			倫理学	1前		2		○					1			
			文化論	1前		2		○						1		
			哲学	1前		2		○								
		歴史学	1前		2		○								兼1	
		選択 必修	社会学	1後		2		○								兼1
			経済学	1後		2		○								兼1
			法学	1後		2		○								兼1
			政治学 日本国憲法	1後 1前		2 2		○ ○								兼1 兼2
選択 必修		数学	1後		2		○						1			
		生物学	1後		2		○								兼1	
	心理学	1後		2		○			1							
	物理 化学	1後 1後		2 2		○ ○			1 1					兼1		
初年 次科	必修	スポーツ科学総論	1後	2			○				6	2			オムニバス	
小計 (33科目)			—	8	47	0	—			10	5	1	0	0	兼30	

教育課程等の概要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	スポーツ生理学 (運動生理学を含む)	1前	2			○			2							
	運動学 (運動方法をを含む)	2前	2			○			1							
	体育原論	1前	2			○			1							
	スポーツ社会学	2後	2			○			1							
	スポーツ心理学	2後	2			○			2	1						
	スポーツ史	2前	2			○			1							
	スポーツ経営学	1前	2			○			1							
	スポーツ栄養学	1前	2			○					1					
	バイオメカニクス	2前	2			○			1							
	機能解剖学	1後	2			○				1						
	スポーツ医学	2前	2			○			2							
	救急処置 I	1後	2			○			1						兼1	
	発育発達と老化	2後	2			○			1							
	体力トレーニング論	1後	2			○			3	1	1	2			兼1	
	スポーツ測定評価	1後	2			○			1	2						
必修	陸上競技 IA	1前	1					○	2	1			1		兼1	
	陸上競技 IB	1後	1					○	2	1			1		兼1	
	器械運動 IA	1前	1					○	1		1				兼3	
	器械運動 IB	1後	1					○	1		1				兼3	
	水泳 IA	1前	1					○	1	1					兼3	
	水泳 IB	1後	1					○	1	1					兼3	
	バスケットボール I	2前	1					○		1	1					
	サッカー I	2前	1					○	1		2					
	バレーボール I	2後	1					○			1					
	テニス I	2後	1					○	1				1			
レクリエーション I	1前	1					○	1		1				兼1		
体力トレーニング実習	1前	1					○	3	1	1	2			兼1		
必修 選択	ダンス IA	2前		1				○		1	1				兼3	
	柔道 IA	2前		1				○	1	1					兼1	
	剣道 IA	2前		1				○			1				兼2	
必修 選択	ダンス IB	2後		1				○		1	1				兼3	
	柔道 IB	2後		1				○	1	1					兼1	
	剣道 IB	2後		1				○			1				兼2	
小計 (33科目)		—	42	6	0	—			19	9	9	2	0	兼16		
形成 科目 目ア	必修	キャリアデザイン I	2後	2			○		1							
	選択	キャリアデザイン II	3後		2		○		1							
	小計 (2科目)		—	2	2	0	—			1	0	0	0	0		

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
発展科目	必修	スポーツ教育概論	2後	2			○				5	5	7	1		オムニバス
		スポーツ教育学	2後	2			○				1					
	選択必修	武道論	3前		2		○						1			
		舞踊論	3前		2		○						1			
		エリートアスリート概論	3前		2		○				1	2	5	1		オムニバス
		スポーツ技術・戦術論	3後		2		○				2	3	5	1		
		コーチング論	3後		2		○				1					
		コーチングの心理学	3後		2		○					1				
		動作分析法	3前		2		○					1				
		スポーツ科学とコーチング	3前		2		○					1				
		競技スポーツ論	3後		2		○					1				
		トレーニング計画	3後		2		○						1			
		スポーツ文化論	3前		2		○				1					
		スポーツと学校教育	3後		2		○					1				
		必修	アスリート実習	3前		1				○	5	5	7	1		
		必修	コーチング実習	3後		1				○	5	5	7	1		
		必修	ハンドボールⅠ	3前		1				○	1		1			
		選択必修	ラグビーⅠ (男子のみ)	3後		1				○		1				
			ソフトボール (女子のみ)	3前		1				○						兼1
			器械運動Ⅱ	4前		1				○			1			
			陸上競技Ⅱ	4後		1				○		1				
			水泳Ⅱ	4前		1				○		1				
			柔道Ⅱ	4後		1				○		1				
			剣道Ⅱ	4前		1				○			1			
			ダンスⅡ	4前		1				○			1			
			バスケットボールⅡ	4前		1				○		1				
			サッカーⅡ	4前		1				○			2			
			ラグビーⅡ	4後		1				○		1				
			ハンドボールⅡ	4前		1				○	1		1			
			バレーボールⅡ	4後		1				○			1			
			テニスⅡ	4後		1				○	1					
			レクリエーションⅡ	3前		1				○	1					
			体育実技指導法 (器械運動)	3前		1				○			1			
		体育実技指導法 (陸上競技)	3前		1				○	1	1					
		体育実技指導法 (水泳)	3前		1				○	1	1					
		体育実技指導法 (柔道)	3前		1				○	1	1					
		体育実技指導法 (剣道)	3前		1				○			1				
		体育実技指導法 (ダンス)	3前		1				○		1	1				
		体育実技指導法 (ゴール型バスケットボール)	3後		1				○		1	1				
		体育実技指導法 (ゴール型サッカー)	3後		1				○			2				
		体育実技指導法 (ゴール型ハンドボール)	3後		1				○	1		1				
		体育実技指導法 (ネット型バレーボール)	3後		1				○			1				
		体育実技指導法 (ネット型テニス)	3後		1				○	1			1			
	必修	スポーツ教育演習Ⅰ	3前	2					○	5	5	7	1			
		スポーツ教育演習Ⅱ	3後	2					○	5	5	7	1			
		スポーツ教育演習Ⅲ	4前	2					○	5	5	7	1			
		スポーツ教育演習Ⅳ (卒業研究を含む)	4後	4					○	5	5	7	1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
体育科教育コース専攻	体育科教育概論	2後	2			○			3	1	3				
	スポーツ教育学	2後	2			○			1						
	体育科教育学	3後	2			○				1					
	授業研究ⅠA(体育)	3前	2			○			1	1	4				
	授業研究ⅡA(体育)	3後	2			○			1	1	4				
	授業研究ⅠB(保健)	3前	2			○			1	1	2				
	授業研究ⅡB(保健)	3後	2			○			1	1	2				
	教育カウンセリングⅡ	3後	2			○			1						
	インターンシップB(体育科教育)	3前	2				○		3	1	3				
	体育科教育演習Ⅰ	3前	2				○		3	1	3				
	体育科教育演習Ⅱ	3後	2				○		3	1	3				
	体育科教育演習Ⅲ	4前	2				○		3	1	3				
体育科教育演習Ⅳ(卒業研究を含む)	4後	4				○		3	1	3					
発展科目	スポーツ心理・カウンセリングコース専攻	スポーツ心理・カウンセリング概論	2後	2			○		4	2					
		認知・行動分析論	3前	2			○		1						
		運動学習論	3後	2			○		1						
		コミュニティダグンス論	3前	2			○			1					
		コーチングの心理学	3後	2			○			1					
		教育カウンセリングⅡ	3後	2			○		1						
		スポーツ心理学実験実習	3前	2				○	4	1					兼2 兼1
		スポーツメンタルトレーニング指導論	2後	2			○		2						
		スポーツ心理・カウンセリング実習	3前	1				○	4	2					
	必修 選択	インターンシップA(スポーツ心理・カウンセリング)	3前	1				○	3	2					
	ゴルフ実習	3後	1					○	1						
	必修	スポーツ心理・カウンセリング演習Ⅰ	3前	2				○	4	2					
スポーツ心理・カウンセリング演習Ⅱ		3後	2				○	4	2						
スポーツ心理・カウンセリング演習Ⅲ		4前	2				○	4	2						
スポーツ心理・カウンセリング演習Ⅳ(卒業研究を含む)		4後	4				○	4	2						
スポーツマネジメントコース専攻		必修	スポーツマネジメント概論	2後	2			○		4	1	1			
	スポーツマネジメントトピック		2後	2			○		4	1	1				
	スポーツマーケティング		3前	2			○		1						
	スポーツ地域創生論		3前	2			○		1						
	スポーツプログラムマネジメント		3前	2			○		1						
	スポーツビジネス論		3後	2			○			1					
	マーケティング・リサーチ法		3後	2			○		1						
	選択 必修	インターンシップB(スポーツマネジメント)	3前		2			○	4	1	1				
スポーツマネジメント海外研修	3前		2				○	4	1	1					
スポーツツーリズム論	4前		2			○				1			兼1		
アウトドアスポーツ論	4前		2			○									
必修	スポーツマネジメント演習Ⅰ	3前	2				○	4	1	1					
	スポーツマネジメント演習Ⅱ	3後	2				○	4	1	1					
	スポーツマネジメント演習Ⅲ	4前	2				○	4	1	1					
	スポーツマネジメント演習Ⅳ(卒業研究を含む)	4後	4				○	4	1	1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
発展科目	必修	アスレティックトレーニング概論	2後	2			○			5	1	1	1		
		臨床スポーツ医学 (整形外科)	3前	2			○			1					
		ストレンクス&コンディショニング理論	2後	2			○			1					
		実践トレーニング科学理論	3後	2			○			1					
		スポーツ外傷・障害の予防と安全管理	3前	2					○			1			
		コーチングの心理学	3後	2			○				1				
		体力科学実験実習	3前	2					○	4		1	1		
		スポーツ救急法実習	3前	1					○		1				
	選択必修	スポーツ外傷・障害予防実習	3前		1				○	1					兼1
		トレーニング実技	3前		1				○	1					
		スポーツコンディショニング実習	3後		1				○	1					
		リコンディショニング実習	3後		1				○			1			
		スポーツ実践実習	3前		1				○	5	1	1	1		
	必修	アスレティックトレーニング演習Ⅰ	3前	2				○		5	1	1	1		
		アスレティックトレーニング演習Ⅱ	3後	2				○		5	1	1	1		
		アスレティックトレーニング演習Ⅲ	4前	2				○		5	1	1	1		
		アスレティックトレーニング演習Ⅳ (卒業研究を含む)	4後	4				○		5	1	1	1		
	健康科学コース専攻	必修	健康科学概論	2後	2			○		4	2	1			
			健康運動実践演習	3前	2				○	2	1				
			臨床スポーツ医学 (内科)	3前	2			○			1				
			臨床スポーツ医学 (整形外科)	3後	2			○			1				
			健康指導管理論	3後	2			○				1			
			栄養管理	3前	2			○					1		
健康と運動の生理学			3後	2			○			1					
健康スポーツ実技A			3前	1					○	1					
健康スポーツ実技B		2後	1					○		1					
必修選択		インターンシップA (健康科学)	3前		1				○	4	2	1			
		健康増進実習	3後		1				○	2	1				
		インターンシップB (健康科学)	3後		2				○	4	1	2			
必修		健康科学演習Ⅰ	3前	2				○		4	2	1			
	健康科学演習Ⅱ	3後	2				○		4	2	1				
	健康科学演習Ⅲ	4前	2				○		4	2	1				
	健康科学演習Ⅳ (卒業研究を含む)	4後	4				○		4	2	1				
小計 (123科目)			—	146	70	0	—		25	12	13	2	0	兼6	

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
関連科目 選択	体表解剖学	2前		2		○				1						兼1	
	トレーナー実習	3後		1				○								兼1	
	健康スポーツ心理学	3前		2		○			1								
	人権教育	4前		2		○											
	身体表現とコミュニケーション	3前		2		○				1		5					
	コーチング法	1後		2		○			1	5		5					
	国際スポーツ論	2前		2		○			1								
	保健体育教職特講	3後		2		○			1								
	臨床スポーツ医学 (内科)	3前		2		○			1								
	レクリエーション指導法Ⅰ	3後		2		○			1								
	レクリエーション指導法Ⅱ	4前		2		○			2								
	教師論	1前		2		○			1								
	保健体育科教育法A	2後		2		○						1					
	保健体育科教育法B	2前		2		○						1					
	保健体育科学習指導論	3前		2		○				1							
	体づくり運動	3前		1					○								兼1
	武道の形	3前		1					○		1						兼1
	なぎなたA	3前		1					○								兼1
	なぎなたB	3後		1					○								兼1
	リズムダンス	3前		1					○			1					兼1
	エアロビックダンス	3前		1					○								兼1
	ハンドボール	3前		1					○			1					兼1
	ラグビー	3前		1					○		1						兼1
	卓球	3前		1					○								兼1
	ソフトテニス	3前		1					○			1					兼1
	バドミントン	3前		1					○			1					兼1
	ソフトボール	3後		1					○								兼1
	野球	3前		1					○		1						兼1
	ゴルフ	3後		1					○	1							兼1
	障害者スポーツ	3後		1					○								兼1
	レジスタンストレーニング	3前		1					○								兼1
	実践英語実技	3前		1					○								兼1
	器械運動Ⅱ	4前		1					○			1					兼1
陸上競技Ⅱ	4後		1					○		1						兼1	
水泳Ⅱ	4前		1					○		1						兼1	
柔道Ⅱ	4後		1					○		1						兼1	
剣道Ⅱ	4前		1					○			1					兼1	
ダンスⅡ	4前		1					○			1					兼1	
バスケットボールⅡ	4前		1					○		1						兼1	
サッカーⅡ	4前		1					○			2					兼1	
ラグビーⅡ	4後		1					○		1						兼1	
ハンドボールⅡ	4前		1					○	1		1					兼1	
バレーボールⅡ	4後		1					○			1					兼1	
テニスⅡ	4後		1					○	1							兼1	
レクリエーションⅡ	3前		1					○	1							兼1	
スノースポーツ実習	1後		1					○	3		1					兼1	
アドベンチャーキャンプ実習	2前		1					○	1		1					兼1	
マリンスポーツキャンプ実習	2前		1					○	3		1					兼1	
小計 (66科目)		—	0	94	0	—			13	10	11	0	0			兼18	

教育課程等の概要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職に関する専門科目	教育原理	1前		2		○										兼1
	教育心理学	1後		2		○										兼1
	特別支援教育概論	2前		2		○										兼1
	教育課程編成論	2後		2		○										兼1
	道徳教育の理論と実践	2後		2		○										兼1
	生徒・進路指導論	3後		2		○			1							
	教育行政	3前		2		○			1							
	特別活動および総合的な学習の時間の指導法	3前		2		○			1							
	教育方法論 (情報通信技術の活用を含む)	3後		2		○										兼1
	教育カウンセリングⅠ	3前		2		○										兼1
	教育実習事前事後指導	4前		1		○			3		1					
	教育実習Ⅰ	4前		4				○	3		1					
	教職実践演習(中・高)	4後		2				○	3	1	2					
	体育実技指導法(器械運動)	3前		1				○			1					
	体育実技指導法(陸上競技)	3前		1				○	1	1						
	体育実技指導法(水泳)	3前		1				○	1	1						
	体育実技指導法(柔道)	3前		1				○	1	1						
	体育実技指導法(剣道)	3前		1				○			1					
	体育実技指導法(ダンス)	3前		1				○			1	1				
	体育実技指導法(ゴール型バスケットボール)	3後		1				○			1	1				
	体育実技指導法(ゴール型サッカー)	3後		1				○			1	2				
	体育実技指導法(ゴール型ハンドボール)	3後		1				○	1		1					
	体育実技指導法(ネット型バレーボール)	3後		1				○			1					
	体育実技指導法(ネット型テニス)	3後		1				○	1				1			
小計(24科目)		—	0	38	0	—	—	7	6	10	1	0			兼6	
資格関連科目	介護技術講義	3後		2		○			2		1					
	障がい者スポーツ指導法	3後		2		○					1					兼1
	特別演習(サッカー)	3後		2			○				1					
	特別演習(テニス)	4後		2			○		1							
	特別演習(水泳)	4後		2			○			1						
	労働概論	3前		2		○										兼1
	労働法規	3後		2		○										兼1
	運動プログラム作成法	3後		2		○				1						
	労働衛生	4前		2		○										兼1
	救急処置Ⅱ	4前		2		○										兼1
	アスレティックトレーナー論	1後		2		○				1						
	アスレティックトレーニング実習A	2前		1				○		1	1					兼1
	アスレティックトレーニング実習B	3前		1				○		1	1					兼1
	アスレティックトレーニング実習C	3後		1				○		1	1					兼1
	スポーツ外傷・障害評価法	2前		2		○				1						
	リコンディショニング理論	3前		2		○					1					
	リコンディショニング実習	3後		1				○			1					
アスレティックトレーニング演習	3後		1				○								兼1	
自由科目	スポーツ科学特別演習Ⅰ	1前			2		○		13	3						
	スポーツ科学特別演習Ⅱ	1後			2		○		13	3						
	スポーツ科学特別演習Ⅲ	2前			2		○		13	3						
	小計(21科目)	—	0	31	6	—	—	15	6	3	0	0			兼6	
合計(326科目)		—	198	336	6	—	—	31	15	14	2	0			兼78	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士 (スポーツ科学)		学位又は学科の分野			体育学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
卒業所要単位 教養科目22単位以上、専門基礎科目44単位以上、発展科目28単位以上、キャリア形成科目2単位以上 合計124 単位 (※必修単位を除いた28単位は教養、専門基礎、発展、副専攻、関連、キャリア形成科目、教職に関する科目 (体育実技指導法のうち2単位まで) から選択履修) (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))						1学年の学期区分			2学期 (前期・後期)					
						1学期の授業期間						15週		
						1時限の授業時間						90分		

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	日本語技法	大学でレポートを書く際の基本的なルールについて指定教科書に基づいて学習する。配付された資料の記事を読んで、与えられた課題や自分で提起した問題について作文する。添削して返却された作文を見直し、必要に応じて書き直す。テーマについてディスカッションしたり、演習問題に取り組む場合もある。大学で勉学する際に必要となる基礎的な日本語運用能力を身につけ、実際にそれらを使えるように訓練する。	
	情報処理実習Ⅰ	現代社会は、コンピュータの急速な進歩と普及に伴い、いわゆる情報化社会となりつつあり、スポーツ・健康を取り巻く様々な分野でも、情報が多様化し、その処理能力が問われるようになってきた。本実習では、情報リテラシーを向上させることを目的に、特に1)情報に係る法律と社会環境 2)情報機器を用いた文書作成 3)電子メールを用いたコミュニケーション 4)PowerPointを用いた発表資料の作成について実際に情報機器を操作しながら学んでいく。	
	統計	この講義では、2年次から始まる専門課程に備え、統計学の基礎を学ぶ。講義の前半はデータから情報を読み取るための記述統計学を学び、後半は標本調査にもとづく推定・仮説検定の基礎を学ぶ。	
	統計基礎	大量のデータの中から必要とする情報を得る手段として、統計処理を実際に行えることは、現代社会における重要な要請である。本授業は、このような統計処理のうち、最も基本的な記述統計によるデータの処理を実際に行えるようになること、及び、それらデータ処理がどのような考え方の下行われるのか理解することを目標とする。	
	日本語技法基礎	大学でレポートを書く際の基本的なルールについて指定教科書に基づいて学習する。配付された資料の記事を読んで、与えられた課題や自分で提起した問題について作文する。添削して返却された作文を見直し、必要に応じて書き直す。テーマについてディスカッションしたり、演習問題に取り組む場合もある。大学で勉学する際に必要となる基礎的な日本語運用能力を身につけ、実際にそれらを使えるように訓練する。	
	日本語技法応用	「日本語技法」を修了した学生を対象とする授業である。日本語運用の応用力を身につけるために、新聞記事などを読んで、自分なりの問題提起をし、考えを整理して他の人に分かるように適切に書く訓練を行う。または、教職・公務員試験の過去問に取り組み、800字から1600字程度の長文の小論文を書く。いずれにしても、書くことを通じて論理的思考力を養成する。	
	情報処理実習Ⅱ	現代社会は、コンピュータの急速な進歩と普及に伴い、いわゆる情報化社会となりつつあり、スポーツ・健康を取り巻く様々な分野でも、情報が多様化し、その処理能力が問われるようになってきた。本実習では特に、表計算ソフトを用いたデータ処理について取り扱う。なお、単に関数を使って計算する方法を学ぶだけでなく、それらを組み合わせることで、より複雑なデータ処理ができることを目指す。これにより、計算機を用いたプログラミングの基礎概念を身につけることを一つの目標とする。また、平均・標準偏差・標準化・偏差値・相関などを実際に表計算ソフトで計算することで、統計処理のより一層の定着を目指す。	
	総合英語A	本授業では、英文法の解説、問題演習、リスニング、会話練習などをつうじて、総合的な英語の能力を身につけることを目指す。	
	総合英語B	本授業では、英文法の解説、問題演習、リスニング、会話練習などをつうじて、総合的な英語の能力を身につけることを目指す。	
	実践英語	eラーニング教材ALC NetAcademy Nextの「総合英語トレーニング 初級コース」の「リスニング&スピーキングサブコース」と「リーディング&ライティングサブコース」を利用する授業である。英語に多量に触れる機会を提供することを目的とする。英語ネイティブ教員と日本人教員を混ぜた指導体制による少人数クラスで、基礎と応用の両面における英語コミュニケーション能力の向上を目指す。	
	応用英語	さまざまな業種で求められることが予想されるTOEICの受験希望者を対象に、実際に問題を解きながら語彙力、読解力、および聴解力の増強を図るTOEIC対策科目。	
	英会話Ⅰ	・ENGLISH CONVERSATION PRACTICE TO DISCUSS PERSONAL INTERESTS AND FOR USE IN EVERYDAY SITUATIONS ・BUILD CONFIDENCE & ABILITY IN LANGUAGE USE (SPEAKING + LISTENING EMPHASIS)	
	英会話Ⅱ	・ENGLISH CONVERSATION PRACTICE FOR USE IN TRAVEL CONTEXTS ・BUILD CONFIDENCE & ABILITY IN LANGUAGE USE (SPEAKING + LISTENING EMPHASIS)	
	海外語学研修	オックスフォード・スクール・オブ・イングリッシュ(イギリス)が開設している、週に20時間の指導がある、一般英語コース(General English 20)に参加する。(コースの詳細: https://oxfordschoolofenglish.com/courses/general-english-courses/course-details)	
	ドイツ語	ドイツ語を使って会話することを重視し、そのために必要な文法や語彙を学習します。会話の場面を学習者に身近な状況を想定することで、みずから学習に取り組むたい気持ちを刺激できるように工夫します。また、言葉を理解するにはその話される国についても学ぶ必要がありますので、ドイツやドイツ周辺地域の文化事情の紹介も必要に応じて行います。	
中国語	本科目では、中国と中国語に関する基礎知識を学ぶ。二人の日本人学生が中国での留学生生活を舞台にし、場面に応じた会話に編集された基礎的な文法、語彙、表現を学ぶイラスト付き本文に文法のポイント、練習ドリルを加えたテキストを使用する。近年の中国社会、生活風習、最新情報なども紹介して、中国に対する理解と関心をより深めてもらう工夫をする。		

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 一般教育科目	文学	この授業では、今までに書名や著者名をよく目にしてきたような有名な文学作品を実際に読んで鑑賞する。「読んだことのある」分野を広げていくことによって、文学全般への関心を深める。古い時代の文学から順に後代のものへと読み進めていくなかで、近代以前の文学と近代以後のそれとの違いについて理解し、人間の文明の歴史についても考察できるように構成している。	
	宗教学	授業の前半では、東洋に展開したヒンドゥー教や仏教などの「輪廻転生を前提とする宗教」、次に、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教という西洋社会に大きな影響を与えた「三大啓示宗教」、そして、学問としての「宗教学」を取り扱う。授業は、まず、主要な世界宗教の特徴とそれらが成立した歴史的背景を知った上で、次に、宗教の比較研究が行われるようになった経緯について学べるように構成されている。そして、最終的には、日本の宗教について世界の他の宗教との比較の視点を取り入れて検討する。	
	倫理学	再生医療の技術革新に象徴的に見られるように、さまざまな分野で、これまでの価値観が安易に適用されない新しい時代を迎えつつある。このような現代において、新たに課題とされるべき倫理的事柄は少なくない。そこで、倫理学の成り立ちと歴史的展開をふりかえり俯瞰した上で、現代的な倫理的諸問題を考察する。	
	文化論	文明や文化がどのように生まれるのか、どのように広がるのか、そして異なる文化がぶつかったときにどのようなことが起こるのかという疑問について考えていきたい。	
	哲学	現代の西洋哲学において論争的となっている以下のような様々な問題について考える。「わたしとは何か?」、「他人の心は実在するか?」、「ロボットに心はあるか?」、「動物に心はあるか?」、「動物を食べることは悪か?」、「フェア・プレーとは何か?」など。これらの問題を考えるうえで、SF小説や映画なども題材として取り上げる。	
	歴史学	本授業では、幕末から敗戦後までの日本近代史を論じる。多くの学生にとって、高校までの日本史といえば、単なる暗記科目にすぎないという印象が強いのではないだろうか。しかし、歴史を学ぶとはそのようなものではなく、過去を見つめることによって、私たちが生きる今を正しく理解することに他ならない。そして、特に日本近代史には、混迷する今日の政治や社会、文化を冷静に読み解くための重要なカギが数多く存在している。本授業に出席する学生諸君には、それらを積極的に、自分なりの考えで見つけようとする姿勢を求めたい。	
	社会学	我々の身の周りに生起する様々な事象の真実を明らかにしようとするれば、これに多面的・多角的な視線を投げかけることが肝要である。社会学は独自の研究方法を用いて、現実社会の逆説性を明らかにすることによって、まさにこの視点の復眼化に寄与する学問といえよう。本講義では、こうした社会学の基本的性格を、他の学問との比較・検討や我々の生活により身近な日常的諸問題の考察などを通して、より具体的より実践的に理解していくことを目指す。	
	経済学	産業革命以降、経済的な要因で世界が動くことが多くなった。この授業では、産業革命以降の歴史を経済的な側面から見ることによって、どのような仕組みで世の中が動いてきたのか、現代にどのような影響があるのかを理解する。経済学部で学ぶような専門的な経済学（数学を多く使うなど）ではなく、あくまで教養を身につけることが目的である。	
	法学	「法学」では、刑法・民法・憲法を中心に法の基礎的知識を学習し、その知識を活用して私たちの社会生活におけるさまざまな問題について、自分で考える力を身につけることを目標としています。また、「ジェンダー法学」「スポーツ基本法」の基礎を学びます。授業では、法を身近な存在として考えられるよう具体的な問題例を参考にしつつ、法と日常生活そしてスポーツとの関わりについて考察していきます。	
	政治学	この講義では、政治に関する基本的な知識を概説的に紹介しながら、現在の政治状況を学生諸君と検討していきたいと思う。それゆえ、国内的な政治的決着にどのような議案があり、どうしてそうなったのか、また、アジア外交や欧米との外交など対外的な日本の姿勢がどのようなものであるか、さらには、政治と経済の関係、政治と教育との関係を、資料を用意して講義する。一年次履修ということに鑑み、高校までの学習を振り返りつつ、学生諸君の政治的な問題意識の深まりに期待し活発な議論を求めたい。	
	日本国憲法	憲法に関する学習を通して、様々な考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養い、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につけます。授業では、できるだけ身近な素材を利用して日本国憲法を学びますので、「憲法」と日常生活のかかわりについて考える機会にもなります。憲法改正の議論が活発化する今、日本国憲法の基礎知識をしっかりと習得しましょう。	
	数学	計算機の発達により、私たちは容易に数値計算ができるようになった。しかしながら、これは計算の手間を省くことができるだけであって、計算機を使いこなすには未知数を求める方法を論理的に理解しておく必要がある。本講義では未知数を求める方法の一つである連立方程式の解法を学ぶことを目標とする。まずは道具立てとしてベクトルや行列の基本的計算法について学び、それらを用いて連立方程式を効率的に解く方法を学習していく。	
	生物学	日々、何気なく過ごしている我々の体内では、24時間、365日、片時も休むことなく何千・何万種類もの物質が生命維持のために働いていると言われている。そこには途方もなく長い生物の進化の過程で構築された、高度に効率化・システム化された「生きるための仕組み」が存在する。本講義では主にヒトを対象として、生命現象を根底で支える「生体高分子」、「生きるためのエネルギーを産生する仕組み（代謝）」、「生物が生き続けるための仕組み（恒常性）」について解説する。これらを通じて、どうして我々は生きていけるのか、その「からくり」を理解し、改めて「生物とは、人間とは何か」について考えたい。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	心理学	人間が外界情報を処理して認識を形成する過程を論じる。外界情報に対する感覚・知覚および認知を、我々の体験する知覚現象を素材として考察し、その機能と仕組みを概説する。社会的知覚や態度形成および情動の知覚の問題にも概説する。その際、無自覚的推論過程の存在に特に焦点を当てる。記憶の諸問題も考察する。その際にも自覚的過程と無自覚的過程を考察する。記憶系と知覚の関係にも考察を進める。	
	物理	地上でボールを投げると、ボールはある法則に従って運動する。力学はこのような運動の法則を、数式を使って理解する理論である。本講義では数学的に位置や速度などの概念を定義した上で、身近な物理現象を通じて、力学の基礎を学ぶ。また、地上の運動の法則と天体の運動の法則が統一的に理解できることを、その歴史的背景を含めて学習する。	
	化学	現在の人間生活や、きたるべき未来にむかって生きるために大切な化学の基礎知識を、スポーツ・健康・安全・エネルギー問題等々の視点から話題提供し、これらを題材に学修しながら化学に対してより一層理解を深め、紛らわしい情報に惑わされることなく客観的情報をもとに自ら考え、ものごとに対して臨機応変に知恵を出せる習慣と能力（リテラシー）を養うきっかけとなるように、卒業後に就職に就くことも想定しながら講義を進める。なお、高校で化学を学修していない受講生も、よく出席したうえで講義中に話をよく聴き積極的に小レポートを作成するモチベーションを保つことにより平常点の努力点部分等が高く評価され、結果的に好成績での単位取得が十分に可能であった事例も少なくない。	
初年次科目	スポーツ科学総論	この授業は、本学が提供するスポーツ科学の専門領域であるスポーツ教育、体育科教育、スポーツ心理・カウンセリング、健康科学、アスレチックトレーニング、そしてスポーツマネジメントの各領域に関する理解を深め、スポーツ科学の概要を理解する。6つのコースのコース主任が授業を担当することにより、2年次から所属するコースを選択するための資料を得ることも目的としている。	オムニバス
専門基礎科目	スポーツ生理学（運動生理学を含む）	スポーツ生理学は、スポーツや運動によって身体にどのような変化が生じるのか、その現象と仕組みを学習する学問である。スポーツや運動が身体の諸機能に及ぼす効果を深く理解することは、スポーツ科学はもちろんスポーツのコーチングに携わる人々、地域や社会体育施設の指導者、そして研究者達にも必要な知識として役立つと考える。本講義では、筋・骨格系、神経系、筋線維タイプ、トレーニングの効果、エネルギー供給系、呼吸と循環、エネルギー代謝を中心に生理学の基礎と応用について学習する。	
	運動学（運動方法学を含む）	運動学及び運動方法学では、1960年にクルト・マイネルによって上梓された「スポーツ運動学」に基づき、指導の現場に役立つ実践的な方法論を追究していく。運動学は、人間のスポーツ運動を学習者の主観的な立場を受け入れる人間学的側面から分析・統合する理論体系であり、運動方法論では学習指導ないし競技コーチングのための指導方法論が意味され、観察方法論を基礎にしているように効果的に指導していけば良いかということについて概論的に追求していく。	
	体育原論	これからの学問、科学において最も重要なことは、これから人間（人類）どうしていけばよいか、世の中をどうしていけばよいかを考えることです。そのために最も大切なことは「無知の知」を自覚し、常により良くしていこうとする態度と実践であると考えます。従来のやり方、過去の経験をもとに私たちは常識を有し、これまで実践してきましたが、これからの変化の激しく予測困難な状況においては、従来のやり方を踏襲するだけでなく、常識を疑い、常により良いものをめざして取り組む必要があります。今後「正解」がある問題についてはすべてAIが回答を出す時代になるかもしれませんが、私たちがすべきことは、「スポーツ」「体育」についても常識を疑い、批判的に思考することです。「体育原論」においては、「体育・スポーツとは何か」「体育・スポーツはどうあるべきか」という本質論について考察し、「体育・スポーツ」について「現状の批判的認識」と「原理論の構築」を実践します。現象の背後にはさまざまな原理・原則が存在しています。それを理解することで考察を深化させ、多様な視点・立場から考えることをめざします。	
	スポーツ社会学	日常生活の中に広く、深く行きわたっている現代のスポーツ現象を社会との関わりの中でとらえてみようというのが本授業の趣旨です。具体的には高度に発達したトップレベルの競技スポーツから健康づくりのためにおこなわれる大衆スポーツ、そしてそれらをつなぎとめているメディアの働きなどについて学びながら、現代スポーツの多面性について学びます。	
	スポーツ心理学	スポーツ心理学は、スポーツ活動で生じる現象を対象（フィールド）とし、心理学的方法により研究する応用科学の一分野として誕生した。すなわち実験心理学、社会心理学、臨床心理学の知見をスポーツ現象に応用しようとするものであった。しかし最近では、従来の研究方法だけではなく、スポーツ心理学独自の見方・考え方を指す動きが活発である。本講義では、スポーツ指導現場で直面する問題と関連させながら、実践に役立つ「知」を最新の研究動向を交えて講義する。	
	スポーツ史	人類史の発展過程と関連づけながら各時代の体育・スポーツの特色や要点について概説する。すなわち体育・スポーツの語彙史から始まり、先史、古代、中世、近代という時代区分によりながら体育・スポーツの大きな変遷について講述する。なお後半ではとくに学校体育の理念の発展史について掘り下げる。	
	スポーツ経営学	スポーツ組織は、これまで自治体や企業などの支援を得て比較的安定した経営環境にあった。しかしながら、新たなプロスポーツリーグの設立やコストパフォーマンスを重視する企業体質への変化、自治体の財政悪化などの影響を受け、スポーツマネジメントに対する関心が高まりを見せてきた。スポーツ経営学では、スポーツ組織のマネジメントのあり方について理解する。本講義では、スポーツマネジメントの基礎的な考え方について学ぶと共に、スポーツマネジメントに求められる「人材」「物財」「財源」の視点、「する」「見る」「支える」の視点などを通してスポーツマネジメントの基礎知識について学ぶ。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義科目	スポーツ栄養学	生物が、成長したり生存したりするために必要な物質を体外から取り込み、これが体内で利用される営みを「栄養」といい、体外から取り込む物質を「栄養素」という。栄養はトレーニングの効果を高め、確実に身につけるために必要な要素である。スポーツ選手のための栄養は、一般の人の栄養とは異なる部分がある。また、摂取した栄養素が体内で利用される結果として現れる「栄養現象」は、運動している場合としていない場合で異なる。同じ食事を取っていても、運動していれば太らないのに対して運動しなければ太ることは、その端的な一例である。授業では栄養の中でも、特にスポーツにとって重要なものについて学ぶ。	
	バイオメカニクス	体育・スポーツの分野におけるバイオメカニクスでは、力強い運動や巧みな運動などのさまざまな身体運動をとり上げて、力学・生理学・解剖学などの基礎知識を応用して研究することにより、それら運動の仕組みを明らかにするところに特徴がある。本講義では、指定テキストの項目に沿って、身体運動の仕組みを理解するのに必要な基礎知識（基礎編）と、高度なスポーツ活動の理解に役立つ知識（応用編）を講義する。	
	機能解剖学	人体の外形を作る骨格と筋は、生命維持に必須な臓器を保護し、様々な運動を可能とする。人体の構造と機能は、スポーツ医学・体育学を学習する者にとって最も重要な事柄である。本講義では、人体に内在する骨や筋、関節の形態や作用を中心に学習する。	
	スポーツ医学	スポーツ医学は、単にスポーツによる障害や外傷の治療のみならず、スポーツによる疾患の治療や予防、健康の維持・増進を目的とする学問である。この授業では、スポーツの現場で直面する様々な医学的問題について学ぶ。まず人体の解剖学的・生理学的な理解を深め、次に医学用語、表現方法を理解し、医学用語を用いて外傷・障害について説明できる様にする。スポーツ医学とは何かを総論で学び、各論では各スポーツ外傷・障害について理解し急性外傷などに対する応急処置ができる様に学ぶ。さらにスポーツに関係する内科系の疾患についても学ぶ。	
	救急処置Ⅰ	救急処置には軽い擦り傷から骨折、生死に関わる重度の急性疾患に至るまで非常に多くの疾患があるが、まず、学生諸君が普段遭遇する可能性の高い疾患について理解し、その救急処置について習得する。救急処置は頭の中で理解するのは当然であるが、実際にできてこそ価値あるものである。したがって、実習も組み込み、救急処置技術を習得する。	
	発育発達と老化	子どもから成人へと成長する過程における身体の発育や身体諸機能の発達を理解することは、スポーツや運動に関わる者にとってたいへん重要な事である。また、成長期を経て高齢期に至る過程をどのように過ごすかについて考えることは、高齢化社会に突入した現代社会において生き方を模索するうえで大変意義的なものである。そこで本講義では、誕生から成長期、さらには高齢期に至るまでのライフステージに沿って、体育・スポーツの指導者という観点から学習する。	
	体力トレーニング論	体力トレーニング論では健康の維持・増進や競技力向上のための体力トレーニングの理論を学び、実践できることを目的とする。実習を通して体験した体力トレーニングをより深く理解するために、現場の話題、最新のトピックスを入れながら講義する。	
	スポーツ測定評価	健康維持・増進、体力向上のためには、体力・運動能力に関する測定が必要で、測定結果を基にトレーニングを実施することが体力の向上につながる。この科目では体育・スポーツの現場で実施されているフィールドテスト(新体力テスト)を中心に測定方法を習得するとともに、体力向上における代表的なトレーニング法を体験することを目的としている。	
	陸上競技ⅠA	陸上競技を構成する走・跳・投種目について、それぞれの生理学的・バイオメカニクスの特性などの基礎的知識に関する理解を深め、実践を通して技術を高める。また、各種目の練習法および指導法について理解し、指導者としての資質を高める。	
	陸上競技ⅠB	陸上競技を構成する走・跳・投種目について、それぞれの生理学的・バイオメカニクスの特性などの基礎的知識に関する理解を深め、実践を通して技術を高める。また、各種目の練習法および指導法について理解し、指導者としての資質を高める。	
	器械運動ⅠA	器械運動の基本的な技(わざ)の習得を目的とする。マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動を行う。マット運動では、「倒立」・「転系」・「はねおき系」・「倒立回転とび系」の技の基本形態を習得する。跳び箱運動では、「支持とびこし系」の基本形態を習得する。鉄棒運動では、「振動系」・「支持回転系」の基本形態を習得する。平均台運動では、「体操系」・「バランス系」の基本形態を習得する。	
	器械運動ⅠB	器械運動の基本的な技(わざ)の習得を目的とする。マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動を行う。マット運動では、「倒立回転とび系」の技の基本形態を習得する。跳び箱運動では、「回転系」の基本形態を習得する。鉄棒運動では、「振動系」・「け上がり」の基本形態を習得する。平均台運動では、「体操系」・「バランス系」の基本形態を習得する。	
実技科目	水泳ⅠA	水を媒体とした運動は、日常生活とは異なった環境のもとで行われるため、身体に対してさまざまな影響を及ぼす。より安全で有効に行うための指導法として次の点について教授する。第1として各種泳法において続けて長く、早く泳ぐための基本的な技術及び知識の習得。第2として各種泳法の指導法の習得。第3として事故防止の安全管理。さらに、水の特性を理解させ、効果的な授業の展開ができる指導力を養成する。	
	水泳ⅠB	水を媒体とした運動は、日常生活とは異なった環境のもとで行われるため、身体に対してさまざまな影響を及ぼす。より安全で有効に行うための指導法として次の点について教授する。第1として各種泳法において続けて長く、早く泳ぐための応用的な技術及び知識の習得。第2として年齢、性差、発達段階に応じた指導法の習得。第3として事故防止の安全管理と救急、救助法の習得。さらに、水の特性を理解させ、効果的な授業の展開ができる指導力を養成する。	
専門基礎科目			

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	バスケットボール I	バスケットボールに必要な「基礎(シュート・ドリブル・パス)」「ディフェンス」「オフense」などの初歩的な技術を身につけ、ゲームのルールを理解させ、チームワークを育む態度を習得させるのがねらいである。バスケットボールの基本技術(特にシュート)からゲームまでを段階に応じて部分的に抽出し、理解させながら授業を進める。	
	サッカー I	個人のスキル(パス・トラップ・ドリブル)の向上をはかる種々のゲーム ・ 2対2のサッカー・テニス ・ 5対5のヘディングゲーム ・ 8対8のスモールゲーム ・ 11対11 ゲーム を通してサッカーの楽しさを体験すると同時に、指導法を学ぶ。ビデオを活用し、ルールの理解、審判技術を習得する。	
	バレーボール I	自分の身体を合理的に活用して、ボールを Volley しコントロールする技術や2〜3人での連携技術を習得する。さらに、ゲームでは、各プレイヤーの役割とチーム戦術を理解して、ゲームでできる能力を高めることを主な課題とする。	
	テニス I	テニスの特性の把握、及び基礎技術とルールの取得を主な目標とする。テニスは幅広い年代層の人々に親しまれているスポーツであり、生涯スポーツとして重要なスポーツ種目の一つである。このことを踏まえ、テニスの特性やルールを把握するとともに、テニスの基礎技術(グラウンドストローク、ボレー、オーバーヘッドスマッシュ、サーブ)を習得し、習得段階に合わせたゲームを行ない、テニスの楽しさを味わうことをねらいとする。	
	レクリエーション I	本授業ではレクリエーション支援の方法、レクリエーション活動の習得、レクリエーション支援の実施を通してレクリエーションへの理解を深める。具体的には、信頼関係づくり、良好な集団づくり、自主的・主体的に楽しむ力を高める展開方法を習得する。	
	体力トレーニング実習	体力トレーニング実習では、健康の維持・増進や競技力向上のための体力トレーニングをより深く理解するために代表的なトレーニング(ウエイトトレーニング、インターバルトレーニング、サーキットトレーニング、心拍数トレーニングなど)を自らが体験し、実践することを目的とする。また各自のエネルギー供給能力の推定を主とするフィールドテストを実施し、体力・運動能力を把握する。	
	ダンス I A	ダンスの基礎的な身体の使い方、ダンスの指導法を学び、教育現場等での指導力を身につける。授業のまとめとして、グループによる作品発表を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。また、運動の苦しい学習者に対しての教育的配慮方法等も学習する。	
	柔道 I A	本授業では柔道の基礎的な知識・技能の習得に重点を置くと共に、正しい礼法や、相手を尊重する精神等、柔道の持つ教育的価値の理解と実践を目指す。	
	剣道 I A	剣道は対人競技であり、竹刀を持って相手と対峙し、攻撃防御のやりとりをすることが魅力の一つとされている。本授業では、こうした攻防の展開を身体で感じながら、剣道の魅力を体感するとともに、武道特有の競技性を学んでいく。また、実際の学校現場における指導法なども含めた内容にする。	
	ダンス I B	ダンス I Aで習得した技能、知識を生かし、模擬授業、ダンス合同発表会でのグループ作品発表を通して、踊る・創る・観るという視点で、ダンスの指導法を獲得することを目指す。	
	剣道 I B	剣道は、対人競技であり、竹刀を持って相手と対峙し、攻撃防御のやりとりを行う競技である。剣道 I Bでは、剣道 I Aで行った基本技能、応用技能をさらに深めていくとともに、剣道の有効打突の条件を理解し、受講者同士が試合形式で攻防の展開を身体で感じながら、剣道の競技性を学習していく。	
	柔道 I B	本授業では柔道 I Aで習得した基礎的な知識・技能に加えて応用的技能の習得を目指すと共に、その指導法についても学ぶ。また安全面に十分配慮をした上で、投げ技、固め技の乱取稽古や、試合稽古も実施する。さらに「投の形」を習得して、投げ技の理合を体得し、講道館柔道初段取得を目指す。	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン I	進路として想定される教員・教育関係、公務員、企業、生涯スポーツ分野等への就職も視野に入れ、授業を通じて望ましい職業観および勤労観を養うための内容を取り扱う。 学ぶことと働くことの意義を考え、昨今の就職状況や環境も知ることで、産業と社会の現実を理解する。 自己分析を行い、自己の適性を知ると共に、多くの職種の実務や事例の紹介を通じて、キャリアプランニングを行う。
キャリアデザイン II		進路として想定される教員・教育関係、公務員、企業、生涯スポーツ分野等を目指す学生が、社会人・職業人として自立できるよう「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」を伸張する内容を中心に講義とグループ演習を行う。自己アピールやプレゼンテーション能力を高め、大学卒業後の進路選択が円滑に進められるようにする。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ教育コース専攻 発展科目	スポーツ教育概論	コースでの学習概要を知悉するため、スポーツ実践の関わる領域での具体的な教育的事実から出発し、成功や失敗の事実認識とともにその発生原因を考究していく各スポーツ競技種目の特性に基づいた方法論の相違、また人々の多様な価値観の変遷に対応しつつも、スポーツ科学理論を基盤とした普遍的価値を見定められる効果的かつ意識的なスポーツ教育にかかわる内容を概観していく。	
	スポーツ教育学	体育・スポーツの専門家をめざす受講生の多くは「体育・スポーツは善いもの」と考えるでしょう。また「スポーツ教育学」という科目があることから、スポーツによる（を通した）教育は可能という前提があります。しかし、そもそも「スポーツ教育は可能か」という問いからはじめる必要があります。昨今の一流スポーツ選手の問題行動、スポーツによるいじめ、スポーツによる（スポーツに現れる）格差拡大などを見れば、このことが理解できます。従来のやり方、過去の経験をもとに私たちは常識を有し、これまで実践してきたわけだが、これからの変化の激しく予測困難な状況においては、従来のやり方を踏襲するだけでなく、常識を疑い、常により良いものをめざして取り組む必要がある。今後「正解」がある問題についてはすべてAIが回答を出す時代になるかもしれない。今、私たちがすべきことは、「スポーツ」「体育」についても常識を疑い、批判的に思考することであろう。「スポーツ教育学」においては、スポーツと教育の関係、その歴史から考察し、具体的事例の検討を通じて、理想的なスポーツ教育について、多様な視点・立場から考えることをめざします。	
	武道論	平成24年度から武道必修化が実施された。このことから武道の持つ教育的価値は大きいことがわかる。本授業では、武道の歴史的背景を探っていくことで、それぞれの武道の持つ伝統性や文化性について触れていくことで、現代武道に至るまでの歴史の変遷を学ぶ。	
	舞踊論	舞踊に関する理論を、体系的に概説していく。民族舞踊、伝統舞踊を含めた舞踊の歴史から現代のダンスまで、映像資料を通して、運動特性や表現形式、舞踊教育、芸術文化などの内容を扱う。	
	エリートアスリート概論	本授業は、トップアスリートとして活躍した経験のある担当教員が、専門競技においてアスリートとしての心構えなどを担当教員の実体験を踏まえて紹介又は解説する。	オムニバス
	スポーツ技術・戦術論	各種球技種目（ハンド、ラグビー、サッカー、バスケ、バレー）の歴史、ルール、技術的特性、戦術的特性などを講義するなかで、球技種目の技術及び戦術についての理解を深める。実際の競技場面をビデオ等で解説し、進化する競技パフォーマンスや戦術的特徴やプレースタイルの違い等を解説していく。さらに、その競技と関係する科学的知見やその競技の最新情報についても紹介する。	
	コーチング論	コーチングの語源、コーチとしての知識を幅広く学、実践現場における効果的な練習方法、あるいは手法であるゲーム分析、パフォーマンス分析の基礎を学び、実践現場での知見から起こりうる状況をどのように解決してゆか、グループワーク等で実践する。	
	コーチングの心理学	本講義では、コーチングやリーダーシップの理論をスポーツ現場での課題と照らし合わせながら紹介していく。また、当該分野の最新の研究にも触れながら、理論や研究からの知見を実際のスポーツ現場に活かす方法を考える。	
	動作分析法	特定のスポーツ種目に習熟している人なら、良い動きと悪い動きの違いは一目でわかる。しかし、「どのくらい速さに差がありますか?」か「角度は何度違いますか?」ということとは分からない。身体の動きを客観的に説明する事が、バイオメカニクス研究の第一歩であり、しいてはコーチング研究の第一歩でもあろう。本講義では、学生諸君が考えた研究テーマにそって、身体運動をビデオで撮影し、その映像をもとに、フォームの観察、距離、時間、速度、角度、角速度などを測定し、身体の動きを客観的に分析する方法を学習する。また、データの提示方法、グラフや表の作り方、レポートの作成方法も説明し、実際にそれらを行う。	
	スポーツ科学とコーチング	近年のスポーツのパフォーマンスの進歩は目覚ましい。それには以下に関する進歩があったからである。簡条書きにすると、1) 指導方法、2) 種目特性に応じた選手の発掘システム、3) スポーツ技術、4) トレーニング方法、5) 用器具、6) 栄養や健康の管理、7) 心理的サポートなどである。これらの進歩は科学的知見の利用によるものが多いということは理解できるだろう。しかし「指導方法」に関しては、勘やコツといったものも重要であるため、科学とは無縁だと考えてしまうこともある。しかし、その勘やコツの多くは指導者本人が気づかないうちに科学的なデータが利用されて生まれたものであることを理解すべきである。本講義では、科学的な知見がスポーツ指導にどのように役立てられるのか、実践的な立場から解説する。本講義を通して、選手に対し「命令」ではなく「説得」できるような指導能力を身につけるきっかけをつかんでもらう。	
	競技スポーツ論	競技スポーツと健康スポーツの関係を理解し、競技者育成に関わる知識を習得する。各種スポーツ競技者を指導育成するために必要な知識を習得する。一流競技者および指導者の行動、言動から競技者としての素養を身につける。	
	トレーニング計画	スポーツにおけるトレーニング計画の基本的な考え方を学び、種目特性の観点から計画立案に際し技術・体力のトレーニングの時間的配分について理解する。また、年間計画からトレーニングセッション(1回のトレーニング)の計画立案の実際について検討・学習する。	
	スポーツ文化論	本講では、スポーツのさまざまなトピックス（東京オリンピック、体罰、ジェンダー、大阪のスポーツ文化、スポーツの発展モデル、スポーツマンガ）をとりあげ、その歴史的・文化的背景や成立事情について講述する。	
	スポーツと学校教育	学校教育においてスポーツは、現在では正課の体育授業においても、課外の部活動や体育行事においても児童・生徒にとってはなくてはならない活動である。本講義では、学校教育に関わるスポーツの位置づけや在り方を確認する。さらには学校教育に関わるスポーツの問題や課題についても取り上げ、その解決に向けた策について議論を深める。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ教育コース専攻 発展科目	アスリート実習	専門競技を高度なレベルで実践するアスリートが、外部のトップチームや、自身の所属外における競技トレーニングに参加し、各自の専門種目におけるアスリート個人としての経験と専門性を深めるとともに、その専門種目を通じた交流を広げ、競技力はもちろん、アスリートとしての総合的レベル向上を図る。	
	コーチング実習	「体育、スポーツに関して得た知識を各自の専門とするスポーツ種目に応じて理解し、科学的、理論的にトレーニング計画を立て、スポーツ指導の現場(実習校)に置いて実践する能力をつける」ことを目的とする。 《実習先》 学外での指導実習を原則としている。中学校、高校の課外活動や民間や公共のスポーツ施設において責任ある指導者のもとでの実習を行う。 ①授業・実習のガイダンス3時間 ②実習準備3時間 ③実習現場の参観・参加6時間(3日以上) ④トレーニング計画・メニュー作成3時間 ⑤コーチ	
	ハンドボール I	技能の進展に伴い、ゲームを通じてハンドボール競技の特性・技術・戦術の基礎を習得することを狙いとする。	
	ラグビー I	ラグビーの個人的基本技能(ハンドリング・ランニング・キッキング・コンタクティング)を身につけることを中心に授業展開する。また簡易ゲームなどを通してルールを理解するとともに、指導法を学習する。 その他、雨天時等は個人技術、ゲーム・ルールのビデオを鑑賞しながら学習する。	
	ソフトボール	ソフトボールは、年齢や性別を問わず誰もが楽しめるスポーツである。また、投げる、打つ、走るといった運動が備わったソフトボールは教材としての価値も高い。 中学・高校での指導を意識して次のような内容を学習する。①投球、捕球、打撃の基礎技術を修得する。②実践的な練習を通して簡単なフォーメーションプレイを学習する。③中学・高校の体育授業の指導方法を理解する。④教科内容の系統性を意識した教材づくりを学習する。	
	器械運動 II	前期は学校体育における指導法を中心に授業を展開する。主に器械運動 I で習得した「技」の技術的認識を深め、学校現場で活かせる指導法を考えていく。後期は発展技に自ら挑戦するとともに、器械運動の練習法や指導法についてさらに深く考えていく機会を提供する。さらに、器械運動 I で扱わない種目の基本技や発展技にも挑戦し、器械運動の楽しさと難しさを再体験することで、その意義と魅力について考える。前後期を通じて、器械・器具の工夫を考え、情報機器(ipad)を活用し、より効果的な授業を探索する。	
	陸上競技 II	陸上競技を構成する走・跳・投種目について、それぞれの生理学的・バイオメカニクスの特性などの基礎的知識に関する理解を深め、実践を通して技術を高める。また、各種目の練習法および指導法について理解し、指導者としての資質を高める。	
	水泳 II	・水泳 I で習得した各種泳法の技術を、さらに向上させるとともに、専門的な知識を習得し泳ぎの段階的な指導方法について教授する。学校体育、競泳、初心者、マスターズ、身体障害者ならびに健康づくりのとしての水泳と幅広い対象者に対する指導方法について考える。 ・水中動作や水泳中の心拍数など、水中で行う運動が及ぼす身体の変化について学ぶとともに、効果的な指導法を考え、模擬授業を通して水泳指導の実践能力を養う。また、学校体育や水泳指導現場での事故予防対策についても考える。	
	柔道 II	柔道の技術的的特性を理解するとともに、基本動作から投げ技、固め技における応用的技能までの効果的な指導法について学ぶ。また、指導計画の立案や模擬授業を通してより実践的な指導法について考える。	
	剣道 II	剣道の実技指導のうち、基本技能から剣道具を着けて攻防を展開するまでの内容について段階的な指導法を実習する。授業同士で指導法についての助言を取り入れながら行う。	
	ダンス II	中学校・高等学校における体育授業を行う上で教師に必要な知識および技能を実践を通して習得する。 ダンスの基礎的な身体の使い方、ダンスの指導法を学び、教育現場等での指導力を身につけるとともに、作品発表(ダンス合同発表会)を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。	
	バスケットボール II	バスケットボールの特性とルールを知り、特性やルールと技術とが、どの様に関連しているかを学ぶ。さらに、シュート・ドリブル・パスなどの基本技術を可能な限り習得し、各技術をゲームのどの様な状況で活かすべきかについての理解を深める。基本技術はゲームのためにあることを十分認識する為に、授業において定期的にゲームを行う。 また、指導を受ける者の学年(年齢)や性差および個性(体力・社会性・スポーツの好き嫌いなど)を熟慮し、1人でも多くの生徒たちが、バスケットボールの面白さや楽しさを出せるようなプログラムを立案し、指導できる方法を考察する。 そのためには、ひとつの基本技術を獲得するためには、多様なドリルを習得することである。	
	サッカー II	前期は個人のスキルの向上とその指導法を習得。後期はグループ戦術を理解し、種々のゲームを通して正規のフィールドでの試合に結びつける。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ教育コース専攻	ラグビーⅡ	ラグビーフットボールの基本的なプレー(ハンドリング・ランニング・キッキング・コンタクティング)を段階的に指導し、コンタクトプレーの無い、男女ともにプレーできるタッチラグビー、タグラグビーに進み、7人制、10人制、最終的にはボール争奪を含む15人制ラグビーができるような指導を行う。また、プレー、ルール等を必要に応じ講義を行うことにより理解を深める。ラグビーの個人的基本技能(ハンドリング・ランニング・キッキング・コンタクティング)を身につけることを中心に授業展開する。また簡易ゲームなどを通してルールを理解するとともに、指導法を学習する。 その他、雨天時等は個人技術、ゲーム・ルールのビデオを鑑賞しながら学習する。	
	ハンドボールⅡ	指導現場に臨んだ際における、指導法の展開、及び技能示範と理論説明が出来る能力を身につける事を狙いとす。	
	バレーボールⅡ	前期では、教育実習を想定してバレーボールの指導法を中心に授業を進める。様々な学習指導(一斉指導、グループ学習、VBによるチームティーチング)と練習形態(対人形式、隊列形式、サークル形式)を提示して、それぞれの利点やねらい等を理解させる。また、模擬授業(モデル授業)を実践させて、ディスカッション(相互評価)の場を与える。 後期では、男女別、男女混成チームによるゲームの中で、各種フォーメーション、ポジション的役割等を理解できるようにチームリーダーを中心としたグループ学習(ゲーム記録)を展開する。また、進んだ段階での技術指導やゲーム指導を想定して、戦術的課題を設定したゲームやルール変更によるゲームを経験することから、実戦的指導に役立つアイデア提供を行う。	
	テニスⅡ	テニスⅠの基礎を受けて、このテニスⅡでは、テニスの指導法を中心に授業を展開していく。	
	レクリエーションⅡ	本授業ではレクリエーションⅠで学んだ基本的な指導法と知識をベースに、レクリエーション支援の方法、レクリエーション活動の習得、レクリエーション支援の実施を通してレクリエーションへの理解を深める。実際の活動現場を想定して、対象者に合わせたレクリエーション支援を実践することで、指導者としての資質を高めることを目指す。	
	体育実技指導法(器械運動)	・15回の授業を通し、器械運動を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法(陸上競技)	・15回の授業を通し、陸上競技領域(走・跳・投運動)の指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法(水泳)	・15回の授業を通し、水泳の指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法(柔道)	・15回の授業を通し、武道領域(柔道)の指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、模擬授業形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法(剣道)	・15回の授業を通し、剣道の指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法(ダンス)	・15回の授業を通し、創作ダンス・フォークダンス・リズムダンスを含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法(ゴール型バスケットボール)	・15回の授業を通し、バスケットボールの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、模擬授業で教材を提案する。	
	体育実技指導法(ゴール型サッカー)	・15回の授業を通し、サッカーの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、模擬授業形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法(ゴール型ハンドボール)	・15回の授業を通し、ハンドボールの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法(ネット型バレーボール)	・15回の授業を通し、バレーボールの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法(ネット型テニス)	・15回の授業を通し、テニスの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	スポーツ教育演習Ⅰ	スポーツ科学に関する文献や資料に基づいて、競技力および指導力を高める基礎的な知識を得ることを目的とする。	
	スポーツ教育演習Ⅱ	演習Ⅰで得た基礎的な知識をもとに、ディスカッション、ディベート、グループワークなどにより、自身の考えを構築することを目的とする。	
	スポーツ教育演習Ⅲ	演習Ⅰ、Ⅱにおいて構築した考えをもとに、各々の専門種目における、競技力向上およびコーチングなどに必要な方法や、技能を身に着けることを目的とする。	
	スポーツ教育演習Ⅳ(卒業研究を含む)	競技力向上およびコーチングなどに関する知見を、科学的に整理することを目的とし、卒業研究に取り組む。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目	体育科教育概論	体育科教育学はいつ、どのように成立し、どういった特徴や目的をもつ学問なのだろうか。また、何を研究対とし、どのような研究領域があるのだろうか。本講義では、「体育科教育学とは何か」について確認する。さらには、体育科教育学に隣接する諸科学との関係についても理解を深めることを通して、体育科教育学研究に取り組むための基礎的知識の習得を目指す。	
	スポーツ教育学	体育・スポーツの専門家をめざす受講生の多くは「体育・スポーツは善いもの」と考えるでしょう。また「スポーツ教育学」という科目があることから、スポーツによる（を通した）教育は可能という前提があります。しかし、そもそも「スポーツ教育は可能か」という問いからはじめる必要があります。昨今の一流スポーツ選手の問題行動、スポーツによるいじめ、スポーツによる（スポーツに現れる）格差拡大などを見れば、このことが理解できます。従来のやり方、過去の経験をもとに私たちは常識を有し、これまで実践してきたわけだが、これからの変化の激しく予測困難な状況においては、従来のやり方を踏襲するだけでなく、常識を疑い、常により良いものをめざして取り組む必要がある。今後「正解」がある問題についてはすべてAIが回答を出す時代になるかもしれない。今、私たちがすべきことは、「スポーツ」「体育」についても常識を疑い、批判的に思考することであろう。「スポーツ教育学」においては、スポーツと教育の関係、その歴史から考察し、具体的事例の検討を通じて、理想的なスポーツ教育について、多様な視点・立場から考えることをめざします。	
	体育科教育学	体育科教育学は、体育授業を中心とする体育実践の改善を目的として行われる研究分野である。本科目では「体育授業の構造」や効果的な体育授業を実現していくための「教師の役割」を中心に講義を展開していく	
	授業研究ⅠA（体育）	体育における教授法、単元計画・指導案に関する専門的知識を理解し、球技（バレーボール・バスケットボール・ソフトボール）、器械運動、陸上競技、剣道の指導案を作成する力を身につける。	
	授業研究ⅡA（体育）	球技（バレーボール・バスケットボール・ソフトボール）、器械運動、陸上競技、剣道を中心に模擬授業を展開し、実践的指導能力を身につける。また、授業評価・分析法などの専門的知識を理解し、模擬授業の分析を通してこれらの能力を身につける。	
	授業研究ⅠB（保健）	保健の学習内容を理解するとともに、教授法や教材・教具づくりを含めた授業づくりに関する専門的知識を理解し、保健の授業づくりに必要な知識及び実践力を身につける。	
	授業研究ⅡB（保健）	授業研究ⅠB（保健）で獲得した力を模擬授業の場面で実践する。教材研究や模擬授業の実践と振り返りを通し、「主体的、対話的で深い学びの保健授業」とはどのような授業であるか探究する。	
	教育カウンセリングⅡ	学校教育現場における教師のカウンセリングマインドの必要性が叫ばれている。近年ではスクールカウンセラーの配置が進んでいる。一方そうした心理臨床の専門家としての支援が必要であると同時に、多感な時代を過ごす生徒と直接公私にわたって触れ合う教師にとっては、その教育活動自体がカウンセリングマインドと大きく関係している。また、教育者としての関わりでなくてはできないカウンセリングも存在するはずであり、その必要性は高まってきている。本講義ではNPO日本教育カウンセラー協会の標準テキストに準じて、教育カウンセリングにおいて必要な知識と技術を学ぶ。その中で真のプロフェッショナルな教育者を目指してほしい。	
	インターンシップB（体育科教育）	近隣小・中・高校にてアシスタントティーチャー（AT）としての実践を通じて、教育現場における体育授業の方法、留意事項、児童・生徒とのかかわり方を学び、教師の役割や厳しさ、喜びを体験する。そして、そのことによって教育の実践的能力を身につけることは勿論、教師になる事への自信と意欲の向上を目指す。	
	体育科教育演習Ⅰ	体育科教育に関する基礎的な理論の学習、実践を通して、問題意識の醸成、情報収集力の習得を目指す。	
	体育科教育演習Ⅱ	体育科教育に関する基礎的な理論の学習、実践を通して、課題解決力の習得を目指す。	
	体育科教育演習Ⅲ	体育科教育分野における諸問題や課題について議論し、問題解決に向けての取り組みや手法について研究の視点で理解を深める。	
	体育科教育演習Ⅳ（卒業研究を含む）	体育科教育分野における諸問題や課題について議論し、問題解決に向けての取り組みや手法について研究の視点で理解を深め、卒業研究としてまとめる。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目 スポーツ心理・カウンセリングコース専攻	スポーツ心理・カウンセリング概論	スポーツ心理・カウンセリングの基礎理解を深め、スポーツ心理・カウンセリングに必要な知識を学習する。スポーツ心理学、認知・行動分析、運動学習、コミュニティダンス、コーチングの心理、教育カウンセリングやスポーツメンタルトレーニングによる指導などの多様な観点からスポーツについて心理学とカウンセリングに基づいた基礎的な理論を修得する。	
	認知・行動分析論	心理学は行動の科学ともいわれ、人の内面(認知的側面)や外面(行動的側面)を観察・評価することでその理解を深めてきた。本授業では、多様なスポーツ場面にみられる人の認知・行動を分析するための研究手法を学習する。心理学研究の多くは認知・行動を数値化して分析することから、そうした数量データの測定および処理法を学習する。また、どのように研究を計画して実施するかという研究計画法についても学習する。	
	運動学習論	運動学習とは、スポーツ心理学領域において、主に運動技能の習得・向上のことである。本講義は、知覚運動制御と運動学習の研究動向について概説し、効果的な運動指導について理解を深めるように、授業内容を構成している。	
	コミュニティダンス論	コミュニティダンスとは、年齢、性別、国籍、障害のあるなしに関わらず、どんな人でもダンスを楽しむことができるという考えをもとに、行われるダンス事業である。言葉のいらないコミュニケーションツールとなるダンスは、健康、福祉、教育、地域社会といった様々な場面で注目されている。 本講義では、心と体の関係からダンスがもたらす社会的な役割の理解を深めることを目指し、人がなぜ踊るのかという舞踊の根源から、コミュニティダンスの歴史的背景、社会的貢献の事例を紹介し、その意義について学習する。また、ゲストアーティストによるワークショップを受講し、実践を通してコミュニティダンスが、心と身体に与える影響について学習する。	
	コーチングの心理学	本講義では、コーチングやリーダーシップの理論をスポーツ現場での課題と照らし合わせながら紹介していく。また、当該分野の最新の研究にも触れながら、理論や研究からの知見を実際のスポーツ現場に活かす方法を考える。	
	教育カウンセリングⅡ	学校教育現場における教師のカウンセリングマインドの必要性が叫ばれている。近年ではスクールカウンセラーの配置が進んでいる。一方そうした心理臨床の専門家としての支援が必要であると同時に、多感な時代を過ごす生徒と直接公私にわたって触れ合う教師にとっては、その教育活動自体がカウンセリングマインドと大きく関係している。また、教育者としての関わりでなくてはできないカウンセリングも存在するはずであり、その必要性は高まってきている。本講義ではNPO日本教育カウンセラー協会の標準テキストに準じて、教育カウンセリングにおいて必要な知識と技術を学ぶ。その中で真のプロフェッショナルな教育者を目指してほしい。	
	スポーツ心理学実験実習	本実習は、スポーツ心理学の多様な研究テーマを研究法とともに体験的に学習することで、スポーツ心理学の諸現象の理解や実践面への応用についての考察を深めることを目的に開講されている。人の心理的側面を行動から観察する際には、それらを客観的に評価することが必要である。このことは、スポーツメンタルトレーニング指導やコーチング、心理的支援の実践にも大いに関わる。スポーツ心理・カウンセリングコースに在籍する学生は、そうした心理的側面の客観的指標について理解を深め、測定することができる知識と技術を備えることが求められるため、本実習でそれらの獲得を目指す。	
	スポーツメンタルトレーニング指導論	近年、競技場面での実力発揮をねらいとした心理的スキルトレーニング(メンタルトレーニング)に対する関心が高まっている。本講義では、日本スポーツ心理学会「スポーツメンタルトレーニング指導士」資格に定められたメンタルトレーニングの理論的背景と、実践内容の具体例を示し、この分野に対する理解を深める。さらに、リラクゼーション、イメージトレーニング、試合前の心理的準備といったメンタルトレーニングにおいて比較中核をなす技法については、体験的な理解を深める目的から、講義時に実習を予定している。	
	スポーツ心理・カウンセリング実習	体育・スポーツ関連の教育機関、企業、施設、組織等での就業体験を通して、職業体験や就職活動への道を開き、社会人としての素養を身につける。また、スポーツ科学や、スポーツ心理・カウンセリングコースの前期における専門科目や演習などで学んだ、スポーツ心理学・スポーツカウンセリング、メンタルトレーニングに関する知識や技術を、実践現場で活用し、その経験を通して自分の力量として身につけることを目的とする。 また、事前研修においては、自身のキャリアへのインターンシップの意味を考え、社会人としての態度を身につける。	
	インターンシップA(スポーツ心理・カウンセリング)	スポーツに関わる教育行政、地域・民間スポーツクラブ、幼児体育、企業スポーツ、プロスポーツ、野外活動に関わる企業や団体での実習を通して、ライブキャリア、ワークキャリアの2つのキャリアを形成しながら、職業選択や就職活動への道を開き、教育者、指導者としての素養を身につける。また、大学で学んだスポーツ心理・カウンセリングに関する知識や技術を、現場での経験を通して自分の力量として身につける。	
	ゴルフ実習	本実習では、生涯スポーツとして認知され、大衆化しているゴルフというスポーツを通して、社会性の育成や人間の成長を目指す。また社交性が高いスポーツであり、交友関係の拡大にも貢献する利点を持つものだが、マナーに理解の無いものは逆に人間性を疑われるものであるため、マナー教育を徹底する。実習は学内での講義や実習を行うと共に、学外ゴルフ場にて集中で行う。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ心理・カウンセリングコース専攻	スポーツ心理・カウンセリング演習Ⅰ	スポーツ心理学におけるさまざまな研究分野についての理解を深めるために、指定論文や指定書籍を抄読していく過程で、読解力を養い、さらに討論の能力を向上していく。これらを通じ、研究の意義、意味を学修しながら、研究に必要な知識や思考態度を養い、批判的・科学的な視点を育みながら、卒業研究を執筆するための基礎的素養を涵養する。	
	スポーツ心理・カウンセリング演習Ⅱ	受講生個々がテーマを設定し、そのテーマに関連する文献の収集を行いながら抄録としてまとめ、発表・聴講する過程でデータ処理方法や結果・考察に関する課題を抽出、問題設定を試みる。課題・問題を解決するそれぞれの研究法を用いて仮説検証し、レポート執筆する。	
	スポーツ心理・カウンセリング演習Ⅲ	演習ⅠとⅡにおいて明確化した各自のテーマを深め、関連する論文の講読、討論を通じて、卒業研究・ゼミ論文の執筆の素地を養う。さらに、研究の意義、理論・研究の現場への応用についても検討した成果として、リサーチプロポーザルを実施する。これらの演習を通して、批判的に考える力を洗練させていく。	
	スポーツ心理・カウンセリング演習Ⅳ（卒業研究を含む）	演習Ⅲまでに学修した研究法および問題設定を援用して、卒業研究を各自もしくは複数名のグループで実施していく。授業の過程において、進捗状況を報告、および情報交換し、受講生全員で討議を重ねていきながら、培った心理学的知識と態度をもとに、卒業研究を完成させることを最終的な学修目標に掲げ、論文執筆する。	
発展科目 スポーツマネジメントコース専攻	スポーツマネジメント概論	スポーツマネジメントの基礎理解を深め、スポーツマネジメントに必要な知識を学習する。スポーツ社会学、スポーツマーケティング、スポーツビジネス、地域創生や野外活動などの多様な観点からスポーツをマネジメントする基礎的な理論を修得する。	
	スポーツマネジメントトピック	スポーツマネジメントのさまざまなトピックス（プロスポーツ、企業スポーツ、総合型地域スポーツクラブ、行政、地域創生、野外活動など）を取り上げ、それらの現場で生じている課題等を理解し、解決策や将来的な展望を実践的に学ぶ。	
	スポーツマーケティング	現代スポーツは大きな産業として発展してきている。多くの人々（スポーツ消費者）がスポーツ用品の購入やスポーツ活動参加、スポーツ観戦のために時間とお金を投資している。また、Jリーグやワールドカップサッカー、オリンピックに対して多くの企業がスポンサーとして投資している。この授業では、スポーツ組織とスポーツ消費者、そしてスポンサー企業や自治体とのより良い関係性を構築を目指すスポーツマーケティングの理論と戦略を学ぶ。	
	スポーツ地域創生論	この授業では、人々の生活の拠点である地域でのスポーツ活動に焦点を当て、ライフスタイルに深く関わりを持つ地域スポーツ振興について学ぶ。住民による主体的なスポーツ活動への参加への取り組み、スポーツイベントのもたらす日常的なスポーツ活動への影響、あるいはプロスポーツや企業スポーツなどが日常的なスポーツ活動への影響などを考えながら、スポーツによって人々が変わり、地域が変わっていく「地域イノベーション」のためのマネジメントについて理解を深める。	
	スポーツプログラムマネジメント	スポーツプログラムの事業展開、リスクマネジメント等について学習する。国際的なスポーツイベントから地域のスポーツイベントを対象に事業展開のしくみや波及効果について学習し、社会課題やライフステージに応じたプログラムの企画を行い、プレゼンテーションと評価を行う。また、スポーツイベントの実施に必要な補助金の申請方法について実践的に学ぶ。	
	スポーツビジネス論	本科目では、スポーツビジネスを幅広いビジネスカテゴリーの一領域として捉え、他領域との比較及び応用の観点からスポーツビジネス市場やスポーツ消費者のメカニズムについて理解を深めることを目的とする。スポーツビジネス領域において応用可能な他領域の基礎理論をミクロ・マクロ両側面から学び、スポーツビジネスの実践の在り方について検討する。	
	マーケティング・リサーチ法	スポーツ・レジャー・レクリエーション事業において、関連市場の動向を捉え、消費者のニーズに応じた製品・サービスを開発していくためには、マーケティング・リサーチ能力の習得が不可欠である。ここでは特にスポーツ消費者を対象としたマーケティング・リサーチの基礎理論とそのタイプ、データ集方法、データ分析方法、リサーチプラン作成について実践的に学ぶ。	
	インターンシップB（スポーツマネジメント）	スポーツ行政、地域・民間スポーツクラブ、企業スポーツ、プロスポーツ、野外活動、レクリエーションに関する企業や団体での実習を通して、職業選択や就職活動への道を開き、教育者、指導者、運営者としての素養を身につける。また、大学で学んだスポーツマネジメントに関する知識や技術を、現場での経験を通して自分の力量として身につける。	
	スポーツマネジメント海外研修	海外のスポーツマネジメントの現場を視察し、意見交換することで、グローバルな素養を身につける。	
	スポーツツーリズム論	スポーツツーリズムとはスポーツ資源とツーリズム（観光）を融合する取り組みであり、その意義、現状、事例を学び、ツーリズムのコンテンツとしてのスポーツの理解を深める。また、既存のスポーツ資源のほかにも地域資源や自然環境の活用がスポーツの発展につながることを学習する。	
アウトドアスポーツ論	日本は世界有数の自然資源（海、森林、山、雪など）を有する国であり、国内外問わずアウトドアスポーツに高い関心が示されている。アウトドアスポーツは健康的なライフスタイルに寄与するものとして多くの人々に親しまれており、近年では「アウトドアスポーツ推進宣言」も相まって、アウトドアスポーツの大会を利用した地域創生や、世界に誇る豊かな自然環境を活用し訪日外国人旅行者の拡大などにも寄与している。一方で、オーバーユースによる自然破壊、知識不足による事故が頻発する事なども同時に指摘されるようになってきている。本講義では、近年のアウトドアスポーツを取り巻く産業や市場、地域創生の動き、課題などを取り上げ、アウトドアスポーツの可能性の広がりや自然と人間の合理的な関係を持続させる方法などについて学ぶ。		

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツマネジメントコース専攻	スポーツマネジメント演習Ⅰ	スポーツマネジメントに関する基礎的な理論の学習、実践を通して、問題意識の醸成、情報収集力の習得を目指す。	
	スポーツマネジメント演習Ⅱ	スポーツマネジメントに関する基礎的な理論の学習、実践を通して、課題解決力の習得を目指す。	
	スポーツマネジメント演習Ⅲ	スポーツマネジメント分野における諸問題や課題について議論し、問題解決に向けての取り組みや手法について研究の視点で理解を深める。	
	スポーツマネジメント演習Ⅳ（卒業研究を含む）	スポーツマネジメント分野における諸問題や課題について議論し、問題解決に向けての取り組みや手法について研究の視点で理解を深め、卒業研究としてまとめる。	
発展科目 アスレティックトレーニン グコース専攻	アスレティックトレーニング概論	アスレティックトレーニングの基盤理解を深め、アスレティックトレーニングに必要な知識を学習する。トレーニング理論、スポーツ医学、スポーツ外傷・傷害の予防、リコンディショニング、ストレングス&コンディショニング、そして実験実習などを通して多様な観点からアスレティックトレーニングの基礎的な理論を修得する。	
	臨床スポーツ医学（整形外科）	近年、生活習慣病の予防・改善のため、スポーツ活動を行う中高年が増加し、年齢や障害の多様化が認められる。そのためスポーツに関わる者には成長期のスポーツ障害から加齢による疾患まで幅広い知識が要求される様になってきた。臨床スポーツ医学Bでは、既にある運動器障害の悪化防止や新たな障害を惹起しないように、運動器の生理的機能を理解し、整形外科疾患の発症メカニズムや病態、さらに実践に即した予防法について整形外科的見地から学ぶ。	
	ストレングス&コンディショニング理論	様々なトレーニングやコンディショニングの実践や指導を行う上での科学的基礎を座学形式で学ぶ	
	実践トレーニング科学理論	本講義は、健康増進や競技力向上を目的に身体組成によるウェイトマネジメントメソッドや呼吸・循環器系、代謝系トレーニング理論を学修する。また、フィジカルチェックデータに基づくフィードバック方法などを教授する。	
	スポーツ外傷・障害の予防と安全管理	スポーツ活動は日常生活よりも怪我や重大事故が発生する可能性が高い。その一方で怪我の多くは予防プログラムの実施により防ぐことが可能な場合が多く、またスポーツが実施される環境は事前に多くの情報収集と統制が可能であることが多く安全対策を講じやすい。本授業では、スポーツにおいて発生頻度の高い怪我について、その予防法を学ぶ。またこれらの怪我に加え、「頭頸部外傷」「労作性熱中症」「突然死」などの重大事故の予防と対策について学習する。	
	コーチングの心理学	本講義では、コーチングやリーダーシップの理論をスポーツ現場での課題と照らし合わせながら紹介していく。また、当該分野の最新の研究にも触れながら、理論や研究からの知見を実際のスポーツ現場に活かす方法を考える。	
	体力科学実験実習	競技者のパフォーマンスに関する体力要素について、ラボテストおよびフィールドテストを中心に実験実習を行なう。フィールドテストでは、種目の特異性、同種目間のレベルを示す瞬発力、最大筋力、心拍数、乳酸値が含まれた体力測定を行う。ラボテストでは、呼吸・循環器系機能、代謝系機能、等速性筋力、アライメント評価、骨格筋繊維形態、神経系機能および基礎体力が含まれた実験測定を行う。そして情報処理として、Excelを用いた表、グラフの作成、関数式計算、t検定による有意差検定が含まれたデータ処理を行い、さらに論文作成を学習する。また、競技種目特性と体力の関係を追及しながら、実際の測定方法を習得し、実践できる能力を身につける。	オムニバス
	スポーツ救急法実習	スポーツによる怪我は競技スポーツだけでなく、学校スポーツやレクリエーションスポーツなど、様々な場面で生じる。本科目はトレーナーだけでなくトレーニング指導者や体育教師なども含め、スポーツ指導者を目指すうえで知るべき受傷頻度の高いスポーツ外傷・障害を取り上げ、その具体的な処置方法について学ぶ。	
	スポーツ外傷・障害予防実習	スポーツ外傷・障害メカニズムや予防に関する研究の知見や基本的な身体の機能解剖学の視点から、スポーツ外傷・傷害予防の考え方やその実施方法を実習を通して学ぶ。	
	トレーニング実技	健康維持・増進、また、スポーツにおけるパフォーマンスの向上には、体力づくりは重要となる。この授業では、筋力・持久力を中心とした体力づくりの方法を実技を通して理解を深め、各種トレーニング方法を習得する。	
	スポーツコンディショニング実習	本授業では、競技場面で最高のパフォーマンスを発揮する為のコンディショニング方法について、実践的に学ぶ。主にスポーツコンディショニングに有効であると考えられる機能的なエクササイズやウォーミングアップについて具体的に紹介する内容とする。	
	リコンディショニング実習	スポーツによる怪我は競技スポーツだけでなく、学校スポーツやレクリエーションスポーツなど、様々な場面で生じる。アスレティックリハビリテーションとは、競技レベルを問わず、「怪我からの競技復帰を目的とする」リハビリテーションである。本科目は、アスレティックトレーナーだけでなくトレーニング指導者や体育教師なども含め、スポーツ指導者を目指すうえで身につけておくべきアスレティックリハビリテーションに関する技術について、実習形式にて学ぶ。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アスレティックトレーニングコース専攻	スポーツ実践実習	本科目は、大学で学んだ運動指導、トレーニング、測定評価、スポーツ医学、アスレティックトレーナー領域に関する知識や技術について、実際の現場での経験を通じてその実践力を養うことを目的とする。	
	アスレティックトレーニング演習Ⅰ	スポーツ科学を多角的分野から観察し、健康の保持増進、競技力向上のためのトレーニング方法やその効果、パフォーマンスの分析を学修する。また、競技場面で最高のパフォーマンスを発揮するためのコンディショニング方法などについても検討し、現場に活かす能力の養成を目指す。	
	アスレティックトレーニング演習Ⅱ	スポーツ医学やトレーニング科学に関する学術論文などを講読し、科学的検証法に関して理解を深める。学生は研究の意義や目的、研究方法、結果などに関してのプレゼンテーションを行い、それらに関してディスカッションを行う。また、学術論文で実際に行われた実験やデータ収集を試み、データ分析、実験結果の意味を議論することにより、科学的検証法や論理的思考法を習得する。	
	アスレティックトレーニング演習Ⅲ	演習ⅠとⅡにおいて明確化した各自のテーマを深め、関連する論文の講読、討論を通じて、卒業研究の執筆のベースを固める。さらに、研究の背景、実験方法、結果・考察など客観的に物事の事象を観察するための研究計画を企画する。	
	アスレティックトレーニング演習Ⅳ（卒業研究を含む）	演習Ⅲまでに研究計画を企画し、卒業研究を各自もしくは複数名のグループで実施する。授業の過程において、進捗状況の報告および情報交換を行い、受講生全員で討議を重ねていきながら、卒業研究を完成させることを最終的な学修目標に掲げ、論文執筆する。	
発展科目 健康科学コース専攻	健康科学概論	コースにおける学びのプロセスを理解し、スポーツ指導者として、人々の体育・スポーツ・運動や健康増進への関心を高めるためにコースの教員がオムニバス形式で授業をすることにより知識を深める。3年次からの専門演習へつながる内容とする。	
	健康運動実践演習	健康増進に関する現場などでリーダーシップ等を発揮できる知識・スキルを、少人数のグループで体験を通して学んでいく。	
	臨床スポーツ医学（内科）	近年、スポーツは健康の維持・増進、疾病予防の面から重要性を増している。この授業では、運動療法が治療法の1つとなる生活習慣病や関節リウマチ・膠原病を理解するとともに、どのような点に注意して運動療法を行うかについて学ぶ。	
	臨床スポーツ医学（整形外科）	近年、生活習慣病の予防・改善のため、スポーツ活動を行う中高年が増加し、年齢や障害の多様化が認められる。そのためスポーツに関わる者には成長期のスポーツ障害から加齢による疾患まで幅広い知識が要求される様になってきた。臨床スポーツ医学Bでは、既にある運動器障害の悪化防止や新たな障害を惹起しないように、運動器の生理的機能を理解し、整形外科疾患の発症メカニズムや病態、さらに実践に即した予防法について整形外科的見地から学ぶ。	
	健康指導管理論	加齢や身体活動量の低下をはじめとする生活習慣の悪化が、メタボリックシンドロームや動脈硬化の要因となる機序について説明する。身体活動・運動が生活習慣病の予防に果たす役割について解説し、運動指導者が安全かつ効果的な健康運動指導を行うための基礎を理解する。また、健康づくりの概念と歴史について理解し、それを推進する保健医療の制度について学ぶ。	
	栄養管理	栄養は運動・休養とともに健康の維持・増進に関わる要因である。授業では、各栄養素の役割と食事との関係について理解を深めるとともに、健康問題やライフステージに応じた栄養および食事のあり方について学ぶ。	
	健康と運動の生理学	スポーツ生理学は、スポーツや運動によって身体にどのような変化が生じるのか、その現象と仕組みを学習する学問である。スポーツ生理学Ⅱでは、健康・スポーツマネジメント学科健康スポーツコースの必須科目として、生活習慣病等の疾病予防と健康・体力増進としての運動の効果とそのしくみに関する生理学の基礎と応用を中心に学習する。	
	健康スポーツ実技A	健康づくりを目的として行われる、運動・スポーツ活動についてウォーキングおよび介護予防を中心としたプログラムを実践的に学ぶ。	
	健康スポーツ実技B	健康づくりを目的として行われる、運動・スポーツ活動についてジョギングおよびエアロビクスを中心に実践的に学ぶ。	
	インターンシップA（健康科学）	身体活動・スポーツ活動を日常生活の一部とすることが健康の維持・増進や種々の疾病の予防・改善に有効なことはよく知られている。そこで、これらの健康問題に取り組むべく、公共や民間の運動施設で指導者としての役割を経験したり、健康産業分野で運動プログラムを作成したりすることで、これから何を学び身につけるべきなのかを知り、考える機会とする。	
	健康増進実習	健康増進に関する現場などでリーダーシップ等を発揮できる知識・スキルを、少人数のグループでの体験を通して学んでいくことを目的とする。	
	インターンシップB（健康科学）	就業体験を通して、職業選択や就職活動への道を開き、社会人としての素養を身につける。また、大学で学んだ健康・スポーツに関する知識や技術を、現場での経験を通じて自分の力量として身につける。	
	健康科学演習Ⅰ	健康科学に関する文献や資料に基づいて、健康の維持・増進に必要な基礎的な知識を得ることを目的とする。	
	健康科学演習Ⅱ	演習Ⅰで得た基礎的な知識をもとに、ディスカッション、ディベート、グループワークなどにより、自身の考えを構築することを目的とする。	
	健康科学演習Ⅲ	演習Ⅰ、Ⅱにおいて構築した健康科学に関する知識をもとに、健康の維持・増進に関して検討すべきテーマを設定することを目的とする。	
	健康科学演習Ⅳ（卒業研究を含む）	演習Ⅲで決定したテーマを科学的手法を用いて解明し、最終的には卒業研究として研究成果をまとめることを目的とする。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
副専攻科目	武道論	平成24年度から武道必修化が実施された。このことから武道の持つ教育的価値は大きいことがわかる。本授業では、武道の歴史的背景を探っていき、それぞれの武道の持つ伝統性や文化性について触れていくことで、現代武道に至るまでの歴史的変遷を学ぶ。	
	舞踊論	舞踊に関する理論を、体系的に概説していく。民族舞踊、伝統舞踊を含めた舞踊の歴史から現代のダンスまで、映像資料を通して、運動特性や表現形式、舞踊教育、芸術文化などの内容を扱う。	
	エリートアスリート概論	本授業は、トップアスリートとして活躍した経験のある担当教員が、専門競技においてアスリートとしての心構えなどを担当教員の体験を踏まえて紹介又は解説する。	
	スポーツ技術・戦術論	各種球技種目(ハンド、ラグビー、サッカー、バスケ、バレー)の歴史、ルール、技術的特性、戦術的特性などを講義するなかで、球技種目の技術及び戦術についての理解を深める。実際の競技場面をビデオ等で解説し、進化する競技パフォーマンスや戦術的特徴やプレースタイルの違い等を解説していく。さらに、その競技と関係する科学的知見やその競技の最新情報についても紹介する。	
	コーチング論	コーチングの語源、コーチとしての知識を幅広く学、実践現場における効果的な練習方法、あるいは手法であるゲーム分析、パフォーマンス分析の基礎を学び、実践現場での知見から起こりうる状況をどのように解決してゆくかを、グループワーク等で実践する。	
	スポーツ科学とコーチング	近年のスポーツのパフォーマンスの進歩は目覚ましい。それには以下に関する進歩があったからである。箇条書きにすると、1) 指導方法、2) 種目特性に応じた選手の発掘システム、3) スポーツ技術、4) トレーニング方法、5) 用器具、6) 栄養や健康の管理、7) 心理的サポートなどである。これらの進歩は科学的知見の利用によるものが多いということは理解できるだろう。しかし「指導方法」に関しては、勘やコツといったものも重要であるため、科学とは無縁だと考えてしまうこともある。しかし、その勘やコツの多くは指導者本人が気づかないうちに科学的なデータが利用されて生まれたものであることを理解すべきである。本講義では、科学的な知見がスポーツ指導にどのように役立てられるのか、実践的な立場から解説する。本講義を通して、選手に対し「命令」ではなく「説得」できるような指導能力を身につけるきっかけをつかんでもらう。	
	競技スポーツ論	競技スポーツと健康スポーツの関係を理解し、競技者育成に関わる知識を習得する。各種スポーツ競技者を指導育成するために必要な知識を習得する。一流競技者および指導者の行動、言動から競技者としての素養を身につける。	
	トレーニング計画	スポーツにおけるトレーニング計画の基本的な考え方を学び、種目特性の観点から計画立案に際し技術・体力のトレーニングの時間的配分について理解する。また、年間計画からトレーニングセッション(1回のトレーニング)の計画立案の実践について検討・学習する。	
	スポーツ文化論	本講義では、スポーツのさまざまなトピックス(東京オリンピック、体罰、ジェンダー、大阪のスポーツ文化、スポーツの発展モデル、スポーツマンガ)をとりあげ、その歴史的・文化的背景や成立事情について講述する。	
	体育科教育概論	体育科教育学はいつ、どのように成立し、どういった特徴や目的をもつ学問なのだろうか。また、何を研究対し、どのような研究領域があるのだろうか。本講義では、「体育科教育学とは何か」について確認する。さらには、体育科教育学に隣接する諸化学との関係についても理解を深めることを通じて、体育科教育学研究に取り組むための基礎的知識の習得を目指す。	
	スポーツ教育学	体育・スポーツの専門家をめざす受講生の多くは「体育・スポーツは善いもの」と考えるでしょう。また「スポーツ教育学」という科目があることから、スポーツによる(を通した)教育は可能という前提があります。しかし、そもそも「スポーツ教育は可能か」という問いからはじめる必要があります。昨今の一流スポーツ選手の問題行動、スポーツによるいじめ、スポーツによる(スポーツに現れる)格差拡大などを見れば、このことが理解できます。従来のやり方、過去の経験をもとに私たちは常識を有し、これまで実践してきたわけだが、これからの変化の激しく予測困難な状況においては、従来のやり方を踏襲するだけでなく、常識を疑い、常により良いものをめざして取り組む必要がある。今後「正解」がある問題についてはすべてAIが回答を出す時代になるかもしれない。今、私たちがすべきことは、「スポーツ」「体育」についても常識を疑い、批判的に思考することであろう。「スポーツ教育学」においては、スポーツと教育の関係、その歴史から考察し、具体的事例の検討を通じて、理想的なスポーツ教育について、多様な視点・立場から考えることをめざします。	
	体育科教育学	体育科教育学は、体育授業を中心とする体育実践の改善を目的として行われる研究分野である。本科目では「体育授業の構造」や効果的な体育授業を実現していくための「教師の役割」を中心に講義を展開していく	
	運動学習論	運動学習とは、スポーツ心理学領域において、主に運動技能の習得・向上のことである。本講義は、知覚運動制御と運動学習の研究動向について概説し、効果的な運動指導について理解を深めるように、授業内容を構成している。	
	コーチングの心理学	本講義では、コーチングやリーダーシップの理論をスポーツ現場での課題と照らし合わせながら紹介していく。また、当該分野の最新の研究にも触れながら、理論や研究からの知見を実際のスポーツ現場に活かす方法を考える。	

授業科目の概要				
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
副専攻科目	スポーツメンタルトレーニング指導論	近年、競技場面での実力発揮をねらいとした心理的スキルトレーニング(メンタルトレーニング)に対する関心が高まっている。本講義では、日本スポーツ心理学会「スポーツメンタルトレーニング指導士」資格に定められたメンタルトレーニングの理論的背景と、実践内容の具体例を示し、この分野に対する理解を深める。さらに、リラクゼーション、イメージトレーニング、試合前の心理的準備といったメンタルトレーニングにおいて比較中核をなす技法については、体験的な理解を深める目的から、講義時に実習を予定している。		
	スポーツマーケティング	現代スポーツは大きな産業として発展してきている。多くの人々(スポーツ消費者)がスポーツ用品の購入やスポーツ活動参加、スポーツ観戦のために時間とお金を投資している。また、Jリーグやワールドカップサッカー、オリンピックに対して多くの企業がスポンサーとして投資している。この授業では、スポーツ組織とスポーツ消費者、そしてスポンサー企業や自治体とのより良い関係性を構築を目指すスポーツマーケティングの理論と戦略を学ぶ。		
	スポーツ地域創生論	この授業では、人々の生活の拠点である地域でのスポーツ活動に焦点を当て、ライフスタイルに深く関わりを持つ地域スポーツ振興について学ぶ。住民による主体的なスポーツ活動への参加への取り組み、スポーツイベントのもたらす日常的なスポーツ活動への影響、あるいはプロスポーツや企業スポーツなどが日常的なスポーツ活動への影響などを考えながら、スポーツによって人々が変わり、地域が変わっていく地域イノベーションのためのマネジメントについて理解を深める。		
	スポーツビジネス論	本科目では、スポーツビジネスを幅広いビジネスカテゴリーの一領域として捉え、他領域との比較及び応用の観点からスポーツビジネス市場やスポーツ消費者のメカニズムについて理解を深めることを目的とする。スポーツビジネス領域において応用可能な他領域の基礎理論をマイクロマクロ両側面から学び、スポーツビジネスの実践の在り方について検討する。		
	ストレングス・コンディショニング理論	様々なトレーニングやコンディショニングの実践や指導を行う上で科学的基礎を座学形式で学ぶ		
	実践トレーニング科学理論	本講義は、健康増進や競技力向上を目的に身体組成によるウェイトマネジメント、メソッドや呼吸・循環器系、代謝系トレーニング理論を学修する。また、フィジカルチェックデータに基づくフィードバック方法などを教授する。		
	スポーツ外傷・障害の予防と安全管理	本授業では競技復帰を目的としてアスリートが行うアスレティックリハビリテーションの概要について講義する。アスレティックリハビリテーションの概要や組織の損傷・修復について講義した後、代表的な実際のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションメニューについて検討する。		
	健康指導管理論	加齢や身体活動量の低下をはじめとする生活習慣の悪化が、メタボリックシンドロームや動脈硬化の要因となる機序について説明する。身体活動・運動が生活習慣病の予防に果たす役割について解説し、運動指導者が安全かつ効果的な健康運動指導を行うための基礎を理解する。また、健康づくりの概念と歴史について理解し、それを推進する保健医療の制度について学ぶ。		
	栄養管理	栄養は運動・休養とともに健康の維持・増進に関わる要因である。授業では、各栄養素の役割と食事との関係について理解を深めるとともに、健康問題やライフステージに応じた栄養および食事のあり方について学ぶ。		
	健康と運動の生理学	スポーツ生理学は、スポーツや運動によって身体にどのような変化が生じるのか、その現象と仕組みを学習する学問である。スポーツ生理学Ⅱでは、健康・スポーツマネジメント学科健康スポーツコースの必須科目として、生活習慣病等の疾病予防と健康・体力増進としての運動の効果とそのしくみに関する生理学の基礎と応用を中心に学習する。		
関連科目	講義科目	運動部指導実践論	本科目は、新しい時代にふさわしい運動部指導者育成のために新たに設置された科目である。日本体育学会および日本体育協会が作成する共通テキストを用いて、オムニバス授業あるいはEラーニングを導入して実施する。 2)～14) 運動部指導における実践上の問題と対処法では、運動部指導実習(教育実習やインターンシップ実習)、あるいは中体連・高体連、教育委員会の推薦するモデル校等での運動部見学をもとに、レポートを作成する予定である。	
		デジタルスポーツ論Ⅰ	スポーツの世界で進展するDX(デジタルトランスフォーメーション)の全体像を学ぶために、「エンターテイメント」と「トレーニング・教育」を縦軸に、そして「デジタル技術を使った分析」と「デジタル技術の応用」を横軸にして、それぞれを組み合わせた4つの領域でスポーツDXの現状の理解と基礎的知識の習得を目的とする。	
		デジタルスポーツ論Ⅱ	スポーツの世界で進展するDX(デジタルトランスフォーメーション)の全体像を学ぶために、「エンターテイメント」と「トレーニング・教育」を縦軸に、そして「デジタル技術を使った分析」と「デジタル技術の応用」を横軸にして、それぞれを組み合わせた4つの領域でスポーツDXの現状を実践的・体験的に学ぶことを目的とする。	
		障害者スポーツ概論	一般にスポーツは、形態、体力、年齢、性別、技術等の違いを、用具やルールを工夫して行われている。障害者のスポーツも、一見特殊に見えるスポーツであっても、障害という「ハンディ」を施設や用具、ルールを工夫すれば健常者と同じスポーツが可能であるという理念の基に、すべて「Adapted Sport=適応性のスポーツ」であるということを知り、視聴覚教材(ビデオ)等も利用して、そうぞうりよく(想像力・創造力)を養えるような内容で、障害に対する知識や理解、障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史や現状、そして、指導法等について講義する。	
		スポーツと人類学	スポーツは文化である。スポーツが文化であるとすれば、スポーツへの接近の仕方、スポーツの文化性に焦点を当てることが重要になる。ここでは文化研究に対して長い蓄積がある分野の1つが、文化人類学である。ここでは文化人類学の視点や方法を援用しながら、スポーツについて分析する。取り上げる対象は、とくにアジアの民俗・民族スポーツとする。	
		スポーツカウンセリング	スポーツカウンセリングとは、選手がスポーツをとおして自己実現を図る際に、臨床心理学を含む応用心理学の知見に基づき、情報提供・教育ならびに心理的援助を行うことである。「カウンセリングを必要としている人は、弱い人、自立心のない人、心の病の人である」といった考えは誤りであり、むしろ自信の課題を悩みとして結実させるには相当のエネルギーが必要である。講義ではさらにスポーツカウンセリングの実際(スポーツ選手の事例)を伝えることで、悩みが成長の糧になっていることを具体的に示す予定である。受講者自らが自己の内的資質の向上を目指し、そしてカウンセリングマインドをもった体育人として育つことを目的としている。	
		スポーツ演習	専門種目として実践していく上で取り組みなければならないことは、単なる試合における勝敗にとどまらず、さまざまな競技の特性を理解した上で、それを実践でき、指導できる素養を身につけなければならない。自己の技術の向上と指導者、実践者として知っておくべき専門的な内容について講義と実践の中での実習形式で学習する。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
開 連 科 目	野外教育論	野外教育は現代社会に不足する自然体験、社会体験、生活体験、克服体験を補完する機能を持ち、近年、野外教育が有する教育的価値が社会的に認知され、その重要性が指摘されている。本講義では、指導者（教育者）としての視点から野外教育における基礎的な理論や実践について学習する。具体的な内容としては、指導者に求められる資質や能力、野外活動の企画や指導、安全管理、評価等に関する理論について学習するとともに、国内外の様々な実践事例や施策等を取り上げ、野外教育の動向についても学習する。	
	衛生学（公衆衛生学を含む）	少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について理解する必要がある。そこで本講義では、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システムの変化に伴い、保健医療の内容も生命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解することを目的に、健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や活動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤として、個々の状況や問題を理解していくための法律、基準値などその時々々の社会状況により変化する可能性の高い情報や統計数値を外観しながら解説する。	
	スポーツ事故法律論	本講義では、スポーツ事故に関する法律問題を、具体的事例を通して学習します。学習した知識を活用して、スポーツ事故の予防について、又、スポーツ事故が発生した場合の解決方法について考える力をつけることを目標としています。身体運動であるスポーツには何らかの危険が伴いますが、その危険を把握するだけでなく、事故をめぐる法律の適用事例を知るとは、スポーツの楽しさを伝える指導者としての行動にも役立つことでしょう。	
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全を含む）	学校保健とは、学校における子供の健康の維持増進、安全に対する諸問題の解決を目指す学問領域である。本講義では、特に発育発達、疾病、安全、保健教育に関わる分野について取り扱う。保健体育教員は、その専門性から学校保健分野に対する責任を負う職務に就く機会が多いことから、正確な知識のみならず、的確な問題解決能力を身につけ、子供の健康の維持増進、安全に資する資質を高める必要がある。本講義では学校保健分野の基礎的な内容を身につける講義を行う。	
	手話実習Ⅰ	聴覚障害者のコミュニケーション手段の一つである「手話」の基本的な表現を習得する。手話は「話しことば」であり、聴覚に障害がある方たちにとっては日常使っている言葉である。手話の特性を知るとともに聴覚障害者の生活上の困難な面や、手話の歴史についても学ぶ。基本的な単語を覚え、物の形や動作の特徴を捉え、手の動きの強弱や早さの違い、表情や体全体で表現することで、多くの表現ができ伝えることができることを理解する。レクリエーションの要素も取り入れながら、手話が身近なものになるようにしたい。	
	手話実習Ⅱ	手話Ⅱの受講後、自己紹介や家族、趣味、教、仕事などを学び、相手の手話が理解でき、話し合えるようにしていく。形、動作、状況など抽象的な内容を学ぶだけでなく、「使う」「行く」など、言葉としては同じでも、何をどのような状況で使用するのかによって手話の表現は異なるため、意味や内容にあった具体的表現をする必要がある。そのような多様な表現や、空間、指さし、視線、体の向きなどの基本文法についても学び、簡単な文章を表現したり、聴覚障害者と簡単な会話ができることを目標とする。	
	初級ピアノ実習A	ピアノの経験者問わず、個人のレベルに即した個人指導の形態で授業を実施する。授業の定員は10名までとする。個室のピアノとヘッドフォンを使用するキーボードが、一人1台ずつ用意されている。90分の中で、練習と個人レッスンの両方を行う。授業外でもピアノ室を借り、各回授業での指摘事項に基づき練習が出来る。初心者には、楽譜の読み方から始め、姿勢・手と指の使い方を学び、奏法を身に付け、表現力も養う。経験者は、個人の技能に応じた課題を練習し、各自の演奏力の向上を目指す。	
	初級ピアノ実習B	初級ピアノ実習Aの基礎編に対して、初級ピアノ実習Bは応用編である。初心者には、前期で学んだ技術・知識を使って、テクニックの向上・音楽性の確立を目指す。授業内試験の試験曲では、練習曲でなく、楽曲に取り組む。また、経験者は楽曲に対する理解を深め、練習方法を工夫し、表現力を高めたい。経験者の試験曲は、1ランク上のレベルに挑戦する意欲を持たせたい。更に、普段から積極的にピアノ曲を鑑賞し、作曲家や曲の背景にも目を向ける事を啓発する。個人指導である為、後期になると進度の差が開くが、他人との競争でなく、根強い練習を心掛けさせたい。	
	レジャー・レクリエーション概論	現代社会の抱えるさまざまな問題や課題に対してレクリエーションの果たす役割を理解するとともに、レクリエーションについての基礎理論、支援の方法、組織の経営、サービスの提供を学習する。また、レクリエーションに関する事業の企画、実施、評価を学び、実践力に結びつく知識と技術を習得する。	
	教育史	この授業では、受講生の方々がこれまで培ってきた近代に対する歴史的な知識と理解を前提し、近代日本の教育を教育思想家・実践家の検討を通して学んでいく。今年度は、幕末期から明治前半にかけての思想家を取り上げ、批判的に考察していこう。	
	スポーツジャーナリズム論	朝日、毎日新聞社が主催する甲子園大会、米中継局の意向に左右される五輪など、スポーツとメディアは相互に依存し合って発展を遂げたが、そこには光と影がある。五輪などの取材や高校野球大会の運営など現場経験を下に、スポーツメディアの実態とあるべき姿を探りたい。同時にスポーツを報じ、表現する魅力や、そのノウハウを伝えたい。また、過去にこの講座を受講した中から多数がマスコミ界に進んでおり、スポーツメディアを志す学生やSNSなどを通じた広報活動に関心がある学生をバックアップしたい。	
	体表解剖学	人の身体に関わる専門職につく者は、正確に人体の構造を理解していなければならない。体表解剖学の講義では、骨の形状、筋、靭帯、腱の位置関係、また神経や血管の走行と徹底的に向き合い、人体構造の理解を深める。これら解剖学的な学習は、触診技術等の基礎となる。	
トレーナー実習	人体のメカニズムを基本にトレーナーとして必要な知識および技術を獲得し、あらゆるスポーツ選手に対応することができる応用力を身につけることを目的とする。		

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義科目	健康スポーツ心理学	スポーツの実践は人々の生活にさまざまな恩恵をもたらし、ストレス解消や健康の維持増進など多岐に渡る。本講義では、日常生活での些細な身体活動から競技スポーツに至るまで、身体を動かすことがどのような恩恵をもたらすのか、生活習慣病の予防にどのように貢献するのか、基礎となるいくつかの健康心理学的テーマと関連させて学習する。また、スポーツがもたらす弊害についても、一般市民およびスポーツ選手の健康問題と関連させながら学んでいく。	
	人権教育	この講義では、現代の教育行政の展開を前提としつつ、平成23年に一部変更された「人権教育・啓発に関する基本計画」（閣議決定）を参照しながら、今日の人権課題に迫り、議論を深めていきたいと思う。なお、教員をめざす履修者が多いことに鑑み、これまで受講者がどのような人権教育を各学校において学んできたかをいま一度反省的に捉えるため、レポートをまとめていただき、今後教員として人権教育分野を担当するにあたっての基盤を築ききっかけとなるように進めていきたい。	
	身体表現とコミュニケーション	身体で表現することは、想像力、表現力、コミュニケーション能力を養い、心と身体に大きなエネルギーを生み出し、人として成長できる力を持っているのではないだろうか？という問いを、文献、映像を通じて、身体表現を読み解き、コミュニケーションする身体を共に考えていく。	
	コーチング法	本授業は、コース担当教員の専門科目におけるコーチングの方法について講義（実技含む）を行う。スポーツ指導には、言葉かけ、コミュニケーション能力などの共通した指導力とそれぞれのスポーツ種目における専門的な技術指導やトレーニング法などのコーチングがある。本学のクラブ活動や実技指導を担当する専門教員が、それぞれの専門種目における独特なコーチング法について実技や講義により解説する。	
	国際スポーツ論	本講では、イギリス・フランス・アメリカ・ロシアなどの国ごとのスポーツ事情や特色、スポーツ強化策、国としてのスポーツ振興策等について講述する。またオリンピックなどの国際総合スポーツ大会の役割や意義について考察する。	
	保健体育教職特講	保健体育科の教師になるには、一般教養、教職教養、専門教養を身につける必要があり、さらに論文の作成能力、体育実技能力、討論やプレゼンテーション能力も必要である。本授業では、これらのうち保健体育科の教師として最低限身に付けておかねばならない専門教養を中心に学ぶ。授業形式は、教員採用試験を意識し、毎回試験形式とする。授業を通して、各自が補強しなければならない点を確認する。総合テストの問題は、授業で行った中から出題する。	
	臨床スポーツ医学（内科）	近年、スポーツは健康の維持・増進、疾病予防の面から重要性を増している。この授業では、運動療法が治療法の1つとなる生活習慣病や関節リウマチ・膠原病を理解するとともに、どのような点に注意して運動療法を行うかについて学ぶ。	
	レクリエーション指導法Ⅰ	レクリエーション支援の理論と方法、活動領域および対象者の理解を通して、実践的な指導方法の習得を目指す。具体的には指導案の作成や指導実践を行い、指導者としての資質を高める。	
	レクリエーション指導法Ⅱ	レクリエーション指導法Ⅰで学んだ基本的な指導法と知識をベースに、レクリエーション支援の理論と方法、活動領域および対象者の理解をさらに深め、より高度な指導方法の習得を目指す。具体的には指導案の作成や指導実践を行い、レクリエーション・コーディネーター指導者としての資質を獲得する。	
	教師論	教職を目指す者に「教職とはどのようなものか」について学び、考察させる。また、教職の意義や教員の役割、資質能力、職務内容、学習指導等に関する知識・技能等を多面的に指導する。	
	保健体育科教育法A	中学校・高等学校における保健体育科教育の基本的内容や教授法について学習する。保健体育の教員免許状取得のための必修科目であり、この科目を取得した者だけが教育実習に行く資格を持つ。	
	保健体育科教育法B	中学・高等学校の保健科教育（中学の保健分野および高等学校の科目保健）に関する基本的な事項と保健授業づくりについて理解を深めるとともに、保健授業の指導内容の概略を理解する。	
	保健体育科学習指導論	「よい保健体育授業とは何か」をキーワードとし、講義を展開していく。主に保健体育授業実践に直結する体育科教育学・保健科教育学の理論を中心に学び、それらの理論を実践の場面で効果的に発揮できる力（授業の立案、実践）の習得が目的である。	
	実技科目	体づくり運動	・学習指導要領にある「体づくり運動」の趣旨を踏まえ、仲間と関わり合い、楽しむ運動を通じ、心と体の関係を理解し、状態に応じて調子を整える。 ・「体づくり運動」における授業導入と応用を理解し、展開を考えた授業づくりができるよう模擬授業として実践する。 ・講義は基本的に、前半講義を行い、後半内容に伴った実技で構成する。理論＋体感型形式をとる。
武道の形		・「日本剣道形」太刀7本、小太刀3本の理合を深く学び、指導法も含めて正しく実践できるようにする。最後に演武として発表する。 ・中西派一刀流「五行之形」の太刀5本、小太刀3本の理合を学び、実践できるようにする。最後に演武として発表する。 柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修業は、攻撃防御の練習によって、身体精神を鍛練修養し、斯道の真髄を体得する事である。そうして、是によって己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究極の目的である。本授業では柔道の昇段に必要な投の形（手技、腰技、足技、真捨身技、横捨身技）固の形（抑込技、絞技、関節技）ができるようになる。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目 実技科目	なぎなたA	授業において、礼法、構え、体さばき及び、基本打突などの基本動作を体得し、しかけ技、応じ技の対人的技能を高め、応用として、しかけ応じ(演技)ができるようにする。防具着用においては、相対する二人が、なぎなたで相手の部位を正しく打突することによって勝負を競う武道としての特性を理解し、基本打突を十分に体得する。また、技術を習得すると共に、中学校で行われる武道、授業の進め方や指導法について学んでいく。	
	なぎなたB	授業においてなぎなたの所作や礼法、構え、体さばき、基本打突等の基本動作を体得し、しかけ技、応じ技の対人的技能を高め、応用として試合競技ができるようにする。	
	リズムダンス	ロックやヒップホップなどの現代的なリズムにのって自由に友達と関わって踊ることを通して、ダンスの醍醐味を味わう。また中学校・高等学校における学習指導要領で扱われている「現代的なリズムのダンス」の指導法から、子供から大人までが楽しめるような心身の健康づくりに役立つ幅広いダンスの指導ができる基礎的な力を身につける。ダンス合同発表会において作品発表を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。	
	エアロビックダンス	エアロビックダンスは一般のダンスとは異なり、ダンス的な要素の強い有酸素運動である。楽しく健康づくりができるエアロビックダンスはすでに定着し、さらに安全に多様なプログラムが行われている。また、中学校におけるダンスの必修化に伴い、指導者としてエアロビックダンスの指導技術の習得が望まれるようになってきた。このような現状を踏まえ、本授業においては、エアロビックダンスの基本的プログラム実践から指導法を体験し、動作の習得を行う。	
	ハンドボール	ハンドボールに必要な「基礎(シュート・ドリブル・パス)」「ディフェンス」「オフェンス」などの初歩的な技術を身につけ、ゲームのルールを理解させ、指導現場に臨んだ際における、指導法の展開、及び技能示範と理論説明が出来る能力を身につける事を狙いとする。	
	ラグビー	ラグビーの個人的基本技能(ハンドリング・ランニング・キッキング・コンタクトディング)を身につけることを中心に授業展開する。また簡易ゲームなどを通してルールを理解する。 その他、雨天時等は個人技術、ゲーム・ルールのビデオを鑑賞しながら学習する。	
	卓球	本授業では、生涯スポーツとしての卓球を実践することで、相手との対応スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計、実践できる能力を培うことをめざす。	
	ソフトテニス	全身運動を基盤とした戦略性に富むスポーツのひとつソフトテニス。その醍醐味は、ラリーの応酬を長く交わすことと、ダブルスにおけるコンビネーションプレーの奥深さを楽しむことである。 スキルアップはもとより、スポーツの特性上欠くことのできない知識・ルールやマナー・エチケットについても学び、学生間の交流を促進するとともに、生涯にわたって実践できるソフトテニスを目指し実技形式で展開していく。	
	バドミントン	本授業では、技術面として基本ストローク・応用ストロークの習得、精神面では授業・試合において思考力の習得やチームワークの重要性を理解させ、技術レベル向上の喜びや競技としての楽しさを体験させることをねらいとする。また、指導面では技術指導の手順、ルール(審判)・マナー(用具の取り扱い等)について随所で触れる。	
	ソフトボール	ソフトボールは、年齢や性別を問わず誰もが楽しめるスポーツである。また、投げる、打つ、走るという運動が備わったソフトボールは教材としての価値も高い。 中学・高校での指導を意識して次のような内容を学習する。①投球、捕球、打撃の基礎技術を修得する。②実践的な練習を通して簡単なフォーメーションプレイを学習する。③中学・高校の体育授業の指導方法を理解する。④教科内容の系統性を意識した教材づくりを学習する。	
	野球	我が国において、野球は競技スポーツとしても生涯スポーツとしても参入人口が多いスポーツである。競技力向上の方法のみならず、指導法や審判法の習得も野球というスポーツとの関わりにおいて重要である。本科目では、投球・捕球・打撃・走塁の技術習得・向上を主たる目的とし、加えて、これらの技術習得における指導スキルの基礎や競技ルール、マナー、用具の取り扱い及び実践における安全管理について学習する。硬式ボールを使用し、試合形式にて授業を進めることも多いことから、安全面の視点において一定程度の技術レベルが求められる。硬式野球の競技経験を有する者を受講対象者とする。	
	ゴルフ	社会コミュニケーションツールとして重視されているゴルフという種目を題材とし、その技術の習得・向上を主たる目的とする。また、ゴルフというスポーツで重視されるマナー、ルール遵守の精神を学び、社会人としての自覚を促すこともねらいとする。	
	障害者スポーツ	「障害者スポーツ概論」を履修した者で、日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員の資格申請予定者を対象に、障害の理解をするとともに、障がいのある人たちのスポーツの疑似体験を行う。また、障がいに合わせて用具やルールの工夫などの実践を通して、創造力を養い、個々に合ったスポーツの導入や指導法を学ぶ。授業を通し、パラスポーツに興味を持つとともに、スポーツ大会やイベントなどのボランティア活動を通して、障がいのある人々とふれあうことで、障害者福祉の現状を知る。	
	レジスタンストレーニング	競技スポーツのあらゆる種目において筋力を向上させることは、パフォーマンスを向上させるために重要である。 単に筋力だけを向上させるだけではなく、種目特性に応じたさまざまな手段での負荷トレーニングを学び、理解する。	
	実践英語実技	体操競技場の恵まれた運動設備環境の中で、器械器具を用いた多様な運動に取り組み、身体運動能力の向上を目指す。また、授業は全て英語で行われ、英語を実際の用いる環境に慣れる機会を提供し、実技実践に取り組みながら、特にリスニングとスピーキング能力の向上を目指す。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目 実技科目	器械運動Ⅱ	前期は学校体育における指導法を中心に授業を展開する。主に器械運動Ⅰで習得した「技」の技術的認識を深め、学校現場で活かせる指導法を考えていく。後期は発展技に自ら挑戦するとともに、器械運動の練習法や指導法についてさらに深く考えていく機会を提供する。さらに、器械運動Ⅰで扱わない種目の基本技や発展技にも挑戦し、器械運動の楽しさと難しさを再体験することで、その意義と魅力について考える。前後期を通じて、器械・器具の工夫を考え、情報機器(ipad)を活用し、より効果的な授業を探索する。	
	陸上競技Ⅱ	陸上競技を構成する走・跳・投種目について、それぞれの生理学的・バイオメカニクスの特性などの基礎的知識に関する理解を深め、実践を通して技術を高める。また、各種目の練習法および指導法について理解し、指導者としての資質を高める。	
	水泳Ⅱ	・水泳Ⅰで習得した各種泳法の技術を、さらに向上させるとともに、専門的な知識を習得し泳ぎの段階的な指導方法について教授する。学校体育、競泳、初心者、マスターズ、身体障害者ならびに健康づくりのとしての水泳と幅広い対象者に対する指導方法について考える。 ・水中動作や水泳中の心拍数など、水中で行う運動が及ぼす身体の変化について学ぶとともに、効果的な指導法を考え、模擬授業を通して水泳指導の実践能力を養う。また、学校体育や水泳指導現場での事故予防対策についても考える。	
	柔道Ⅱ	柔道の技術的特性を理解するとともに、基本動作から投げ技、固め技における応用的技能までの効果的な指導法について学ぶ。また、指導計画の立案や模擬授業を通してより実践的な指導法について考える。	
	剣道Ⅱ	剣道の実技指導のうち、基本技能から剣道具を着けて攻防を展開するまでの内容について段階的な指導法を実習する。授業同士で指導法についての助言を取り入れながら行う。	
	ダンスⅡ	中学校・高等学校における体育授業を行う上で教師に必要な知識および技能を実践を通して習得する。 ダンスの基礎的な身体の使い方、ダンスの指導法を学び、教育現場等での指導力を身につけるとともに、作品発表(ダンス合同発表会)を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。	
	バスケットボールⅡ	バスケットボールの特性とルールを知り、特性やルールと技術とが、どの様に関連しているかを学ぶ。さらに、シュート・ドリブル・パスなどの基本技術を可能な限り習得し、各技術をゲームのどの様な状況で活かすべきかについての理解を深める。基本技術はゲームのためにあることを十分認識する為に、授業において定期的にゲームを行う。 また、指導を受ける者の学年(年齢)や性差および個性(体力・社会性・スポーツの好き嫌いなど)を熟慮し、1人でも多くの生徒たちが、バスケットボールの面白さを享受出来るようなプログラムを立案し、指導できる方法を考察する。そのためには、ひとつの基本技術を獲得するためにある、多様なドリルを習得することである。	
	サッカーⅡ	前期は個人のスキルの向上とその指導法を習得。後期はグループ戦術を理解し、種々のゲームを通して正規のフィールドでの試合に結びつける。	
	ラグビーⅡ	ラグビーフットボールの基本的なプレー(ハンドリング、ランニング、キッキング、コンタクティング)を段階的に指導し、コンタクトプレーの無い、男女ともにプレーできるタッチラグビー、タグラグビーに進み、7人制、10人制、最終的にはボール争奪を含む15人制ラグビーができるような指導を行う。また、プレー、ルール等を必要に応じ講義を行うことにより理解を深める。 ラグビーの個人的基本技能(ハンドリング・ランニング・キッキング・コンタクティング)を身につけることを中心に授業展開する。また簡易ゲームなどを通してルールを理解するとともに、指導法を学習する。 その他、雨天時等は個人技術、ゲーム・ルールのビデオを鑑賞しながら学習する。	
	ハンドボールⅡ	指導現場に臨んだ際における、指導法の展開、及び技能示範と理論説明が出来る能力を身につける事を狙いとする。	
	バレーボールⅡ	前期では、教育実習を想定してバレーボールの指導法を中心に授業を進める。様々な学習指導(一斉指導、グループ学習、VBによるチームティーチング)と練習形態(対人形式、隊列形式、サークル形式)を提示して、それぞれの利点やねらい等を理解させる。また、模擬授業(モデル授業)を実践させて、ディスカッション(相互評価)の場を与える。 後期では、男女別、男女混成チームによるゲームの中で、各種フォーメーション、ポジション的役割等を理解できるようにチームリーダーを中心としたグループ学習(ゲーム記録)を展開する。また、進んだ段階での技術指導やゲーム指導を想定して、戦術的課題を設定したゲームやルール変更によるゲームを経験することから、実践的指導に役立つアイデア提供を行う。	
	テニスⅡ	テニスⅠの基礎を受けて、このテニスⅡでは、テニスの指導法を中心に授業を展開していく。	
	レクリエーションⅡ	本授業ではレクリエーションⅠで学んだ基本的な指導法と知識をベースに、レクリエーション支援の方法、レクリエーション活動の習得、レクリエーション支援の実施を通してレクリエーションへの理解を深める。実際の活動現場を想定して、対象者に合わせたレクリエーション支援を実践することで、指導者としての資質を高めることを目指す。	
	スノースポーツ実習	スキーまたはスノーボードのどちらかを選択し、冬季野外活動の意義や効果について学習する。具体的には各種目の技能と理論を習得し、それらの教育的価値や生涯スポーツとしての価値を理解する。また、自然への興味や関心を高め、自然についての知見を深める。そして、組織的な集団生活を通して、豊かな人間関係の構築のあり方を身につける。	
	アドベンチャーキャンプ実習	自然を活用した冒険的要素の強い野外活動を通して、リーダーシップやクリティカルシンキングといった個人の能力や、コラボレーション、集団の危機対応といった集団生活に必要な諸能力を体験的に学習する。また、より深い自然との関わりから、自然の持つ魅力や教育的価値を学び、自然と共生していくための環境倫理を身につける。	
マリンスポーツキャンプ実習	ヨットやカヤック、無人島キャンプ等を通して海辺での野外活動の意義や効果について学習する。具体的には各種目の技能と理論を習得し、それらの教育的価値や生涯スポーツとしての価値を理解する。また、自然への興味や関心を高め、自然についての知見を深める。そして、組織的な集団生活を通して、豊かな人間関係の構築のあり方を身につける。		

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する専門科目	教育原理	本授業の目的は、これからの教育を構想するための基礎知識をもつことである。具体的には、「教育とは何か」「学校とは何か」を原理的および歴史的に考察することを通して、今の教育や学校がどのようにして成立したのかを理解する。	
	教育心理学	幼児・児童または生徒の心身の発達及び学習過程に関する科目として開講する。発達に関しては、遺伝と環境、初期経験など発達の諸問題を講じた後に、ピアジェの知能の発達段階説、エリクソンの発達段階論を中心とした発達段階説を紹介する。学習に関しては、主要な学習理論を概説し、動機づけと記憶についても講じる。さらに人格および個人差の問題、測定・評価および学習障害と発達障害にも言及する。	
	特別支援教育概論	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が学習活動に参加し、生きる力を身につけていくことができるように、幼児・児童・生徒の学習上又は行動上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して対応していくための必要な知識や支援方法を事例を通して学ぶ。	
	教育課程編成論	本講義では、教育課程の意味や意義、学習指導要領の歴史的変遷、教科及び教科外教育（特別活動、総合的な学習・探究の時間等）の教育課程について学ぶ。また、カリキュラムの編成主体や編成原理等の基礎的な理解を深めた上で、カリキュラム・マネジメント等のこれからの学校教育で求められる教育課程のあり方について教師の立場から理解することを目指す。	
	道徳教育の理論と実践	学校における道徳教育の意義を理解するため、道徳教育の理論と歴史を理解する。また、道徳教育の実践的指導力を養うため、学校における道徳教育と道徳科の目標と内容を理解するとともに、道徳科の指導方法を身につける。	
	生徒・進路指導論	前半は、テキスト『規則と生徒指導』を用いて「生徒心得」や「生徒規則」について基本的な理論、言説や判例を知る。これをふまえて、文部省「校則の見直し」事例や、子どもの権利条約を教材とした授業案に学び、授業指導案づくりを試みる。 後半は、フィールドワークとして大阪商工会議所が営む「大阪企業家ミュージアム」（大阪市中央区本町、大阪Metro「堺筋本町」駅東へ130m）にグループ別に出向き、体験的に調査活動を現地で行う。その後、相互にプレゼンテーションにて成果報告会を開催する。中等教育段階の学校教育における生き方教育として、進路指導と生徒指導の関係性およびその指導法について具体的な理解を深める。	
	教育行政	わが国教育のシステムと枠組み・内容について、社会的、制度的及び行政的観点から学習し理解を深めることにより、教員として必要な資質能力を育成する。	
	特別活動および総合的な学習の時間の指導法	前半は、現実社会の諸課題を確認しながら幼児教育から中等教育まで俯瞰した特別活動、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間に関する基礎理論や学習指導要領の変遷を通じてその目標や内容を知る。 後半は、指導法として各内容に応じた教材研究、指導案づくり、模擬実践、評価の概要を踏まえ、学校教育（特別活動、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間の視点）とSDGs、Society5.0、近未来の市民社会等との関連について、グループワークの話し合い活動やプレゼンテーションを通じて理解を深める。テキスト、資料、作品はすべてポートフォリオに整理して保持する。	
	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法は、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることにある。そのため、「教育の方法論及び技術」・「情報通信技術を活用した教育の方法」の二つのテーマに沿って、学習内容の理解を深めるためグループワーク等を取り入れ、デジタルデバイスを活用して学習を進めていく。	
	教育カウンセリングⅠ	教育カウンセリングは、臨床心理学を基礎とした教師のカウンセリングマインドを養成する授業である。まず、教師に求められるカウンセリングマインドについてスクールカウンセラーとの連携も含めて学ぶ。次に、人間の心身について理解を深める。さらに、学校の課題と生徒の心を理解したうえで、いじめ、不登校、非行、障害を持つ生徒、家庭の問題について臨床心理学的に考えていく。最後に、最低限必要な心理カウンセリングの基礎を学んだ上でもう一度、学校における生徒の心の問題にどのように対応すればよいかを検討する。	
	教育実習事前事後指導	教育実習における事前および事後の指導をおこなう。本講義では、教育実習の意義・概要、実習の常識、実習中起こりうるであろう事態（特に安全管理）に対応出来る知識等の習得をめざす。	
	教育実習Ⅰ	教育実習Ⅰでは、生徒や学習環境等に対して観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通じて生徒の実態と学校経営及び教育活動を理解することを目標とする。また、大学で学んだ教職に関する専門的な知識・理論・技術等を教科や教科外活動の場面で実践する基礎を修得することも目指す。	
教職実践演習（中・高）	教育実習の経験を踏まえて、学校教育の課題を自ら見つけ、その課題の解決のための具体的な実践方法について考える。教科（保健体育/福祉）や道徳の学習指導案、学級経営案等の作成、教育課題についての講義やケーススタディ、ロールプレイ等を通して、学校教育において起こるさまざまな課題・問題に対する実践的指導力を育成する。		

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	体育実技指導法（器械運動）	・15回の授業を通し、器械運動を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法（陸上競技）	・15回の授業を通し、陸上競技領域(走・跳・投運動)の指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法（水泳）	・15回の授業を通し、水泳の指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法（柔道）	・15回の授業を通し、武道領域(柔道)の指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、模擬授業形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法（剣道）	・15回の授業を通し、剣道の指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法（ダンス）	・15回の授業を通し、創作ダンス・フォークダンス・リズムダンスを含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法（ゴール型バスケットボール）	・15回の授業を通し、バスケットボールの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、模擬授業で教材を提案する。	
	体育実技指導法（ゴール型サッカー）	・15回の授業を通し、サッカーの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、模擬授業形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法（ゴール型ハンドボール）	・15回の授業を通し、ハンドボールの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法（ネット型バレーボール）	・15回の授業を通し、バレーボールの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	体育実技指導法（ネット型テニス）	・15回の授業を通し、テニスの指導法を含めた授業設計力を身につける。 ・授業設計の各ポイントを理解したうえで、グループごとにICTを活用した指導方法を含めて検討し、マイクロティーチング形式で教材を提案する。	
	資格関連科目	介護技術講義	小中学校の教員免許状申請にあたり「介護等体験」が義務付けられた。そのため、この授業科目においては、「介護等体験」の意義と心構え等を理解するとともに、特別支援教育および介護に関する基本的な知識と技術を獲得することによって「介護等体験」実習に参加のための事前指導と位置付ける。したがって、この授業科目が未履修の場合は、「介護等体験」実習に参加できない。
障がい者スポーツ指導法		講義の前半では、全国障害者スポーツ大会と関連させながら、障害（身体障害・精神障害など）に関する基礎的な知識を学ぶ。後半ではスポーツを指導する立場に立つ上での基礎的な内容（インテグリティやコンプライアンス、対象者とのコミュニケーションスキルなど）について学ぶ。	
特別演習（サッカー）		本学は日本サッカー協会より公認指導者の養成講習会の免除適応コースとして承認されている。 受講資格は、コーチ教育コース（演習担当者一曾根・松尾）・4年間サッカー一部在籍者・インターンシップA（コーチング実習）修了者・サッカーII受講者、教員免許取得見込み者・卒業単位取得見込み者、の全ての条件を満たす者。 以上の条件を満たし、指導実践と学科試験に合格した者に、(財)日本サッカー協会・公認指導者ライセンス（C級）と(財)日本体育協会公認指導者の資格を与える。	
特別演習（テニス）		本学は(財)日本スポーツ協会より、公認スポーツ指導者養成講習会の免除適応コース（公認スポーツ指導者養成講習会の専門科目講習の免除）として認められており、テニスIIと合わせて、この演習および共通科目の所要単位を取得した者に公認テニスコーチ1のライセンスが与えられる。 (公財)日本テニス協会が発刊する『JTA強化指導指針2010』や技術指導に関する映像、そしてテニス指導教本を用いながら、ライセンス取得のための指導理論・実習を習得する。また、最終日には実技検定（実習も含む）および筆記試験が行われる。	
特別演習（水泳）		水泳競技者の育成に関わる知識を習得する。水泳競技者に対する基本的な指導方法を習得する。水泳指導者が獲得すべき泳技術（古式泳法を含む）を身につける。	
労働概論		労働経済や労働の歴史を学ぶことで、労働を広い意味で把握し、労働問題や労働環境への理解を深める。労働者をめぐる関係法令と労働問題発生時の対応策を理解する。	
労働法規		労働安全衛生法では従業員50人以上の事業所で選任が義務付けられた「衛生管理者」は労働衛生管理で重要な役割を担います。その「衛生管理者」として活動する際に必要な「労働基準法」及び「労働安全衛生法」について理解し、企業活動等の実務で法令解釈ができる能力を養う。また将来、受講生が起業や会社員等で働く場合に、その基礎になる法令知識として役立つ授業とする。	

授業科目の概要			
(スポーツ科学部 スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格 関 連 科 目	運動プログラム作成法	スポーツ活動を健康の維持・増進に役立てるための運動プログラム(種類・強度・時間・頻度)の作成法を実験を通して学び、運動処方するための基礎理論について学習する。各個人が検者、被検者(全員)となりプログラムを作成する。実験が中心となるため実験に興味ある学生が望ましい。	
	労働衛生	働く人々が心身ともに健康で快適に職業生活を送ることができる職場環境の形成は社会的要請も高く、衛生管理者にはその実現のため、中心的な役割を担うことが期待される。 本講は、第一種衛生管理者免許を取得しようとする者には必修の科目であり、単位を修了することで国家資格が得られることを踏まえ、衛生管理者規程に定める「労働衛生」から救急処置を除く範囲を網羅し、教養的な知識にとどまらず衛生管理者として実務を担うこととなってもその期待に応えられる実践的な知識を第一に、加えて体育学部における専門性を生かし、腰痛予防体操やTHP指針における運動指導の分野でも指導的立場で関与できる、守備範囲の広い産業保健スタッフとして活躍できる知識を提供するものである。	
	救急処置Ⅱ	救急処置Ⅰを履修し合格した者に対し、スポーツや学校体育のみならず、遠征先や日常生活、および災害時における傷病者への対応を、より実践的に考察し、救急処置Ⅰ等で学んだ知識と技術を正しく実践できる人材育成を目指し、講義と実技を行う。	
	アスレティックトレーナー論	本講義では、アスレティックトレーナーの役割とその制度について、以下の3点について概説する。 1. アスレティックトレーナーの役割 2. 日本スポーツ協会のスポーツ指導者資格の歴史や種類 3. 公認アスレティックトレーナーのコンピテンシーに応じた業務と運営、スポーツ指導者の倫理	
	アスレティックトレーニング実習A	本実習は日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー資格検定試験を受験希望する学生を対象に開講されている。受講生は(公財)日本スポーツ協会専門科目テキストで示されているアスレティックトレーナーがスポーツ現場で実施すべき救急対応、検査測定と評価の方法について実習形式にて学ぶ。	
	アスレティックトレーニング実習B	本実習は日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー資格検定試験を受験希望する学生を対象に開講されている。受講生は(公財)日本スポーツ協会専門科目テキストで示されているアスレティックトレーナーがスポーツ現場で実施すべきコンディショニングの方法について実習形式にて学ぶ。	
	アスレティックトレーニング実習C	本実習は日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー資格検定試験を受験希望する学生を対象に開講されている。受講生は(公財)日本スポーツ協会専門科目テキストに示されているアスレティックトレーナーがスポーツ現場で実施すべき役割とその方法についてさらに発展的な内容を実習形式にて学ぶ。	
	スポーツ外傷・障害評価法	本講義ではアスレティックトレーナーがスポーツ現場で実施すべき評価法を学ぶ。アライメントや運動機能などの日頃より選手の状態を把握するための評価、HOPSS評価法の手順に沿った受傷時の評価を学ぶ。	
	リコンディショニング理論	スポーツによる怪我は競技スポーツだけでなく、学校スポーツやレクリエーションスポーツなど、様々な場面で生じる。リコンディショニングとは、競技レベルを問わず、怪我によって失われてしまった身体機能やパフォーマンスを改善するための取り組みである。本授業では競技復帰を目的としてアスリートが行うリコンディショニングの概要について講義する。リコンディショニングの考え方を学び、代表的な実際のスポーツ外傷のリコンディショニングメニューについて検討する。	
	リコンディショニング実習	スポーツによる怪我は競技スポーツだけでなく、学校スポーツやレクリエーションスポーツなど、様々な場面で生じる。リコンディショニングとは、競技レベルを問わず、怪我によって失われてしまった身体機能やパフォーマンスを改善するための取り組みである。本科目は、アスレティックトレーナーだけでなくトレーニング指導者や体育教師なども含め、スポーツ指導者を目指すうえで身につけておくべきリコンディショニングに関する技術について、実習形式にて学ぶ。	
	アスレティックトレーニング演習	本講義は(公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生を中心に開講されている。本科目ではスポーツで発生する外傷・障害の病態や傷害発生メカニズム、一般的治療法からそのリコンディショニングまでの一連の理解を深め、その応用力を養う。	
	自由 科 目	スポーツ科学特別演習Ⅰ	スポーツ科学には、様々な専門領域が存在する。この授業では、それぞれの専門領域についての基礎知識を理論と実践との両面から理解する。
スポーツ科学特別演習Ⅱ		スポーツ科学には、様々な専門領域が存在する。この授業では、それぞれの専門領域の基礎的な内容を理解した上で、データの収集や分析の関する能力を身につける。	
スポーツ科学特別演習Ⅲ		スポーツ科学には、様々な専門領域が存在する。この授業では、それぞれの専門領域領域の知識やデータの分析能力を身につけた上で、その結果をスポーツ場面に応用する能力を養成する。	

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人浪商学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入 学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入 学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪体育大学				大阪体育大学				
体育学部				令和6年4月学生募集停止				
スポーツ教育学科	320	-	1280	<u>0</u>	-	<u>0</u>		
健康・スポーツマネジメント学科	200	-	800	<u>0</u>	-	<u>0</u>		
教育学部				スポーツ科学部 学部の設置(届出)				
教育学科	125	-	500	<u>520</u>	-	<u>2080</u>		
計	645	-	2580	計	645	-	2580	
大阪体育大学大学院				大阪体育大学大学院				
スポーツ科学研究科 博士前期課程	24	-	48	スポーツ科学研究科 博士前期課程	24	-	48	
スポーツ科学研究科 博士後期課程	6	-	18	スポーツ科学研究科 博士後期課程	6	-	18	
計	30	-	66	計	30	-	66	